

## 令和5年度第1回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

1 開催日時 令和5年7月21日（金） 午前10時00分開会

2 開催場所 郷土博物館 研修室

3 出席委員

委員長	伊藤 誠	委員	木曾野 真紀
副委員長	友田 賢司	委員	近藤 敏
委員	山本 博	委員	地引 尚幸
委員	今井 恵子	委員	唐木 義昭
委員	加藤 正人		

(欠席委員)

委員	瀧澤 真		
----	------	--	--

4 出席職員

教育長	御園 朋夫	主幹	稲葉 理恵
生涯学習課長	島田 宏之	主幹	桐村 久美子
顧問	井口 崇	副主査	水流 拓馬
館長	西原 崇浩		

5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	0人

6 報告

(1) 令和4年度郷土博物館事業報告について

(2) その他

## 7 議題

(1) 令和4年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について

(2) 令和5年度郷土博物館の事業計画について

## 8 議事

**伊藤委員長** では、報告(1) 令和4年度郷土博物館事業報告について、事務局から説明をお願いいたします。

**事務局** 資料に基づき説明

**伊藤委員長** 報告(1) 令和4年度郷土博物館事業報告について、何か質問ありませんか。

**唐木委員** 調査の対象は、どのような時代を主としているのか。すごく古い時代なのか、比較的新しい時代なのか、その比率はどうなっているのか。今話があった「井出先生の写真館」は自分も見て、ものすごく枚数が多かった。1枚1枚何か重くのしかかってくるような感じを受けた。睦沢町歴史民俗資料館で芝原人形の展示をやっていたので行ってきました。芝原人形は、明治時代頃の風俗を粘土の人形で表している。要するに、両方とも比較的新しい年代です。忘れられる記憶とぎりぎりのところにある年代とも言えます。そういうわけで、比率はわかりませんが最近の新しいものもできれば力を入れてほしいなと思います。井出先生の写真館も皆さんの興味が大きかったから延長されたということだと思います。

**事務局** 調査の対象となっている年代の比率ということですが、調査の基本となるのは、学芸員の専門分野ということになりますので、当館は考古学を専門としている職員が多いのでそちらに偏りがちではあるのですが、実際のところ地域博物館として、地域やその周辺にある資料を中心に考えていきますので、そうするとやはり、扱うものは比較的新しい時代の資料が多くなります。自分の場合は文献を主に対象としていて、本来の専門は中世ですが、地域に残っている資料の多くは近世・近代・現代になりますので、調査もそちらを対象にすることが多く、比率としては新しい方が多くなっています。

**伊藤委員長** よろしいですか。では、その他確認したいことはありますか。

木曾野委員 上総掘りの民俗、映像制作とあるのですが、映像を制作してその映像はどんな形で保存・公開されるのですか。

事務局 年1本ずつ作成しております、今年度が3年目になるわけですがけれども、実際に技術を伝承したいという方が現れた時に、その技術をしっかりと見て、映像を見ることによって再現できるというものを現在作成しております。公開の方なのですが、公開するものではなくて、伝承のための映像ということになりますので、常設展示で公開するとかそういうものではないので、公開は考えておりません。

木曾野委員 博物館や図書館で見られるとか、YouTube にあげるとか、そういったことをイメージしていたのですが、わかりました。

西原館長 制作の意図が、公開よりも技術伝承に力を入れておりますので、ずっと手元が映っていたり、一般的な普及目的の映像とは趣旨が違いますが、ご希望があればお見せすることはできます。

伊藤委員長 よろしいですか。続きまして議題に入りたいと思います。(1) 令和4年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について、事務局から説明をお願いします。

事務局 資料に基づき説明

伊藤委員長 何か質問がありますか。

唐木委員 山野貝塚は、博物館・ゆりの里、周囲の史跡等を合わせて総合的に展開していきましょうという方針があって、その場合散策マップを使っていくことになる。前回会議の時にもらった資料に、散策マップ作成がありましたね。博物館のホームページを見ると2018年に散策マップを作成しましたとあるのですが、これ私見たことないです。それで、30ページの3番にこのあたりのことが出ていますが、作成したマップはどのような活用をされているか、また今後それはどのような活用をしていくか。このマップは個人的にみることはできるのですか。鴨川などはホームページを見ると載っている。当館がどういう考えをしているのかおしえてほしい。

山野貝塚は、アピールのために、ゆりの里にパンフレットだとか案内板とか設置したいと思っている。以前、当博物館の案内板について聞いたことがあります、今現在、ゆりの里の駐車場のところにありますけれど、あまり目立たないと思います。館長からも将来的に移したいという話があったと思

います。山野貝塚の案内板はいつ頃どういう形でやるのかわかりませんが、せっかくやるのであれば、当館の案内板もいっしょに移したらどうですか。当博物館と山野貝塚は表裏一体ですから、同じ場所に設置してもらってもいいのかなと思います。

**伊藤委員長** コメントをお願いします。

**事務局** ではまず、マップの活用ということで、博物館の方では「行ってみようマップ」と呼んでいるのですが、これは平成30年度の企画展の時に、県の方で国庫補助を受けて実施しておりました博図公連携事業の関係で、最初は文化庁の補助金を受けて作成したものです。それが大変好評でしたので増刷いたしました。昨年度再度増刷しました。これは博物館を中心に、行って帰って2時間くらいの範囲を散策マップとしたもので、バスで博物館に来るお客様、一度来たらなかなかバスがなくて帰れないという方が、次のバスが来るまでの間、時間を有効に使っていただけるよう、2時間くらいで散策できる範囲をマップにしました。中に山野貝塚についても入れておりますが、山野貝塚だけではなくこの地域を全体的に見ていただき、お気に入りの場所を探してもらえればという意図で作成しております。毎年根形小学校は、6年生の体験学習で博物館まで歩いてくるのですが、このマップをコピーしたものを持って、朝、根形小学校まで担当職員が行って、マップを使って説明しながら歩いてくるということをしております。

それから、もう少し広域になるのですが、去年は大河ドラマにもあやかりまして、周辺の鎌倉街道と源頼朝伝説が一目でわかるマップというのを作り、多くの方にお持ち帰りいただいております。こちらのマップはホームページからもダウンロードできるようになっております。

**西原館長** 行ってみようマップの方は現在ホームページに出していないので、ご指摘の通り、著作権等を確認した上で誰でも見られる状態にしたいと考えます。

**唐木委員** 一般の人には配っていないのですか。

**西原館長** 配っていますが、ホームページでは出していません。

**唐木委員** 袖ヶ浦散策というのは。

**事務局** そちらは市民学芸員郷土を学ぶ会が地域ごとに自分たちが歩いてまとめた主に石造物を中心とした調査の集大成として、各公民館・図書館へDVDとして配っております。図書館の方ではそれをプリントアウトして閲覧でき

るようになっております。DVDとして見られるようにはなっておりません。公民館の方は、活用はそれぞれの館に委ねておりますので、講座等での活用を考えてはいたのですが、一般には見られるようにはなっていないと思います。

**島田課長** 山野貝塚のお話をいただきましたので、こちらは生涯学習課が主体となっておりますので、その動きについてお伝えしたいと思います。

山野貝塚はご存じの通り国指定の史跡ですから、国の指導が入っております。昨年度から8年間の整備基本計画を作っております、今年になりましたようやくできまして、現在パブリックコメントをしている最中です。このパブリックコメントが7月23日までの予定で市民の皆様のご意見をいただいているところなのですが、そちらが終わりまして、その意見を含めた上で、今後教育委員会の方で議決をいただいて決定していくという流れです。これが終わった後に、今年また実施計画を立てまして、看板も含めた形で具体的な保存計画を立てて実施していく予定です。こちらの方にも国の調査員とかアドバイザーを配置していますので、看板のレイアウトとか日本語だけでなく英語とかどういった言葉を入れるかとか、そういったことも委員会の中で、意見を伺いながら設置場所・大きさ等も今後検討して行って、設置へ向けて行っていこうと思います。ただ看板だけではなくて、貝塚の保存もしていかなければなりませんので、現在は盛土をして貝塚の縄文時代後期から晩期の状況を復元していこうと、当時生えていた植物の植生を復元してみようとか、また一般の方々が現地に来られた時に実際の貝塚の断面等が見られるような形にする等、いろいろと考えながらやっております。現在はそういうところに向けて準備をしているという段階です。

**伊藤委員長** こちらから現地まで連れて行くというのが好評だったようです。私から質問ですが、1つは外国人でも見学できる環境ができていないということですが、これは実際にいらっしゃるのですか。

**事務局** 実際はあまり見かけないです。来ていただいた場合は、日本人の方がついていることが多いです。

**伊藤委員長** 多言語といってもいろいろありますね。外国人として登録されている方はかなりいますが、日本語話せる人も多いですね。

**西原館長** 唐木委員から指摘がありましたゆりの里の案内板ですけれども、この袖博自体が山野貝塚のガイダンス施設として整備計画に位置付けられておりますので、本格的に整備が始まる段階でどこまでできるかわからないところは

ありますが、案内板等は博物館も一緒に考えていけたらと思います。

**伊藤委員長** 君津地方社会教育研究会への参加とありますが、これはその大会で何か発表したということですか。

**事務局** 君津地方社会教育研究会というのは4市の社会教育に携わる職員で作っている研究会になるのですが、部会がありまして、それぞれに研究会を開催しております。その研究会への参加ということで、こちらに加えております。

**西原館長** 4市の公民館・図書館・博物館・生涯学習課等の職員が集まって、専門ごとの部会に分かれて、研究をしたり、講演を聞いたりとか、自己研鑽を行っております。そこに博物館職員も参加したという意味合いです。

**近藤委員** 学校の先生は夏季休暇に入っているのですが、夏季休暇の間に先生方は研修をされると思うのですが、そういうところに博物館は何か関わっていますか。

**事務局** 昨年あった事例ですが、市内に中川小学校という学校がありまして、中世の村が復元できる「横田郷」と呼ばれている場所が学区にあたります。その横田郷について、夏季休暇中に教育向けの研修会をしてほしいと言われて、学校の方でお話をしたことがあります。

また、これまでは先生方の研究会の社会科部会の方で見学に来られたり、どこか歩くときに講師をしてほしいと言われて実施したことはあります。また近年、袖ヶ浦市の退職校長会が研修会として各地区の歴史散策を行っており、案内役ということで博物館が依頼を受けております。

**西原館長** 夏季休暇に限ったことではないのですが、市研社会科部会の研修会等で利用してもらっています。

**近藤委員** 先生が知らなければ子どもたちに教えられないわけですから、郷土の歴史を先生方によく理解してもらって、おもしろい教材があればどんどん使ってもらえるように動くというのは博物館の仕事だと思いますので、よろしくお願いします。

**伊藤委員長** 確かに夏休み期間中だといろいろ難しい部分はあると思いますが、努力してみてください。

井口顧問 以前は、夏季休暇中を利用して、先生に、博物館のコミーシャルもあるのですが、博物館をどういう風に使ったらいいとか、地域で教材化できそうなものをお知らせしていました。今、そういうのはなくなってきているのですけれど、そういったことも重要ですので、考えていけたらと思います。

西原館長 国立科学博物館から博物館に対し、夏季休暇に合わせて先生のための講座を開いてくれという要請もあります。そういったことで来ていただくのを待つのでなく、こちらから例えば袖ヶ浦の市研の先生などに、こういう講座があるから来てくださいというお願いはした方がいいのかなと思います。そういったところも今後の課題として考えたいと思います。

近藤委員 私は、小学校は名古屋市近郊なのですが、子どもの時に聞いたことなどは覚えています。やはり生まれ育ったところというのは最終的には心のふるさとじゃないですけど、その子の矜持になっていくと思います。

伊藤委員長 それでは、令和5年度郷土博物館の事業計画についてということで、事務局から説明をお願いします。

事務局 資料に基づき説明

伊藤委員長 何か質問があればお願いします。

唐木委員 9月に十五夜コンサートというのがありますね。一回も参加したことがないのでわからないのですが、場所はここですか、それとも旧進藤家住宅とかですか。演奏者はどういった方々ですか。

事務局 場所は博物館の正面の方です。十五夜コンサートですが、現在市民学芸員の方でも検討中で、今月の30日に定例会がありますので、ここでもう少しいろいろと決めていく予定なのですが、一宮の方の雅楽の会、令和元年度に一度、十五夜コンサートで計画したのですが、台風15号で中止となり、その後コロナ禍のため中止が続いております。市民学芸員の方も人数がそれほど多くないところに、だんだんと年齢が上の方から辞められる方も出てきているところで、十五夜コンサート自体が市民学芸員での運営は難しいのではないかという意見も出ておりまして、そのあたりの確認も含めまして今度の定例会で検討していきます。

伊藤委員長 やるとするともう4年ぶりくらいですか。結構人が来ますよね。暗くなって涼しい時にやるということですね。

西原館長 竹灯籠を作る等を市民学芸員が行います。

伊藤委員長 では、その他ということでは何かありますか。

事務局 今年度日本博物館協会の大会が千葉県でありまして、全国博物館大会千葉大会ということで、11月15日から3日間開催されます。こちらには、当館からは西原館長が実行委員として参加しております。

西原館長 これですが、日本全国の博物館に関わっている職員300から500名ほどの方が千葉に来られて、博物館について検討する大会となっております。一般の方も参加可能ですが、参加費がかかります。会議の内容については、また私の方から報告したいと思います。

事務局 令和元年度に京都大会がありまして、その時は当館からも職員が参加しています。

伊藤委員長 その他よろしいですか。よろしければ、閉会とします。

みなさん、貴重なご意見、ありがとうございました。

事務局 慎重審議ありがとうございました。令和5年度第1回袖ヶ浦市郷土博物館協議会、これにて閉会といたします。本日はありがとうございました。

閉会

# 令和5年度第1回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

## 会議次第

日 時 令和5年7月21日（金）  
午前10時から11時40分  
場 所 郷土博物館 研修室

### 1 開 会

### 2 委員長あいさつ

### 3 教育長あいさつ

### 4 報 告

(1) 令和4年度郷土博物館事業報告について（10分）【質疑10分】

(2) その他

### 5 議 題

(1) 令和4年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について（25分）  
【質疑30分】

(2) 令和5年度郷土博物館の事業計画について（5分）【質疑10分】

(3) その他

### 6 閉 会

## 第 2 1 期袖ヶ浦市郷土博物館協議会委員名簿

氏 名	選 出 区 分	備 考
たきざわ まこと 瀧澤 真	学校教育 蔵波小校長	再任 2 期目
やまもと ひろし 山本 博	社会教育 文化協会	新任
ともだ けんじ 友田 賢司	社会教育 子ども会育成会	再任 2 期目
いまい けいこ 今井 恵子	社会教育 郷土博物館友の会	新任
かとう まさと 加藤 正人	社会教育 市民学芸員	新任
きそ の まさき 木曾野 真紀	家庭教育 保育ボランティアひよこ	新任
いとう まこと 伊藤 誠	学識経験者	再任 9 期目
じびき ひさゆき 地引 尚幸	学識経験者	新任
こんどう さとし 近藤 敏	学識経験者	新任
からき よしあき 唐木 義昭	学識経験者	再任 3 期目

任 期 令和 5 年 2 月 1 日から令和 7 年 1 月 3 1 日まで

## 報告（1）令和4年度郷土博物館事業報告について

### 1 令和4年度の経営方針及び重点施策

#### （1）経営方針

郷土博物館では、第3期教育ビジョンの基本目標である「未来を創る 心豊かでいきいきとした人づくり」の実現に向け、生涯学習活動の機会や場を提供し、地域の人づくりや絆づくりに貢献するとともに、郷土の歴史と文化を学び後世に伝える活動を推進します。そのため、郷土博物館は、引き続き「袖ヶ浦市郷土博物館の使命」に示す4つの項目を重点施策とし、国史跡・山野貝塚をはじめ、市内の文化遺産（地域資料）についての調査研究活動及び収集・保管・展示を行い、市の歴史を探ります。

また、市民学芸員・友の会等との協働により教育普及事業・博学連携事業のさらなる充実を図り、市民や学校への学習支援を行い、市民活動の場、知的交流の場としての利用を促進するとともに、その担い手である市民学芸員・友の会員をはじめとしたボランティアの育成にも力を入れて参ります。

そして、新型コロナウイルス感染症対策も含め、多くの来館者が安心・安全に利用していただけるように、施設を適切に管理します。

なお、令和4年度は開館40周年にあたるため、市民とともに歩む博物館として更なる前進を目指し、市民学芸員自主企画展をはじめとした記念事業に取り組みます。

### 2. 重点施策

#### （1）地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。

博物館活動の原点である地域における調査研究と地域資料の収集・保存・管理に努め、市民の共有財産として次世代に継承します。特に、上総掘りの技術については、記録映像を制作するなど、技術の伝承と保存に努めます。

また、地域資料の調査研究の成果を各事業の開催により市民と共有します。さらに、ホームページ・新聞等を活用して博物館活動を広くPRし博物館利用の促進を図ります。

#### 調査研究

- ・ 袖ヶ浦市の縄文時代・弥生時代に関する調査
- ・ 袖ヶ浦市内の生物に関する調査
- ・ 中世荘園に関する調査
- ・ 民俗・祭祀に関する調査 等

#### 地域資料管理活用事業の展開

- ・ 地域資料の調査収集及び活用
- ・ 収蔵保管資料の適正な管理
- ・ 収蔵資料の修復委託（奈良輪漁業組合資料）
- ・ ホームページによる情報発信  
（事業の目標値：情報メディアによる資料公開 年3回）
- ・ 古文書等表題データベース作成
- ・ 埋蔵文化財写真デジタル化

- ・『袖ヶ浦市史研究』第21号刊行（博物館開館40周年記念号）

## 民俗文化財伝承・活用事業 **令和4年度重点取組**

- ・上総掘り技術の記録映像制作
- ・上総掘り講座の実施

### (2)市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上に貢献します。

市民の学習や知的交流の場として、市民のニーズを考慮しながら、常設展示の部分的な更新を図り、企画展や特別展を計画的に開催します。また、市民が自らの意志で参画できる事業を企画し、地域の学習力や地域文化の向上に貢献します。また、非常時における講座・イベントのあり方や企画展等への来館者対応について、他館の事例等を参考により安全で効果的な方法を模索し、実践します。

博学連携事業は小学校の学習指導要領の改訂も行われ、更なる充実を図るため、身近な学びの場として子どもたちが日常的に活用できるように博物館活動の周知に努めます。さらに、博物館活動の担い手である市民学芸員や友の会の活動を支援するとともに、新たな人材の発掘と育成を図り、市民と共に歩む博物館活動の充実に努めます。また、市内外の各種団体との連携により地域の魅力発信に努め、地域文化の向上に貢献します。

#### ① 展示更新推進事業の展開（事業の目標値：本館常設展入館者数 32,500人以上）

- ・企画展3回（事業の目標値：企画展入館者数 3,000人以上/回）

i 企画展Ⅰ「館蔵資料展 くらだし・おひろめⅡ」

ii **開館40周年記念 市民学芸員自主企画展「富士山」** **令和4年度重点取組**

iii **企画展Ⅱ 袖ヶ浦の美術Ⅱ「辻元大雲展」** **令和4年度重点取組**

（事業の目標値：特別展・企画展及び常設展示への収蔵資料活用 年2件

企画展開催時の関連事業実施 企画展1回につき2回）

- ・常設展示の部分更新（中世）
- ・旧進藤家住宅での各種展示（年1回）
- ・ロビー展示・ミニ企画展等の開催

・**万葉植物園の活用（市民学芸員協働実施）** **令和4年度重点取組**

#### ② 教育普及事業の推進（事業の目標値：諸団体との協働事業の実施回数 年5回）

- ・考古学専門講座の開催
- ・友の会、市民学芸員、上総掘り技術伝承研究会等諸団体との協働による事業の開催
- ・博物館講座「袖ヶ浦学」の開催
- ・友の会との共催による自然と歴史の散策会
- ・夏の子ども向けイベントの開催

#### ③ 博学連携事業の拡充

- ・校外学習支援（市内・市外）（事業の目標値 年15件）
- ・資料の貸出（事業の目標値 年6件）
- ・学習相談
- ・教員対象研修の実施
- ・学校向けワークシートの作成・活用
- ・アウトリーチ活動（出前講座・出前授業・現場出張）

(事業の目標値：アウトリーチ 実施回数 年3件)

- ・山野貝塚体験型プログラム実践 (中学生版)
- ・学校図書館との連携促進 (物流システムの活用)

#### ④みんなにやさしい事業の推進

- ・高齢者施設との連携 (博福連携：博物館と福祉施設等の連携)
- ・多言語対応の推進
- ・ハンズオン (実際に手を触れるなどの体験学習) の充実

#### ⑤ボランティアの養成と支援

- ・市民学芸員主催イベント(子どもの日イベントなど)への支援  
(事業の目標値：市民学芸員自主企画事業の実施 年3回以上)
- ・市民学芸員フォローアップ研修の実施と市民学芸員の生涯学習サポート  
(事業の目標値：市民学芸員研修の実施 年2回以上)

#### ・市民学芸員養成講座の実施と新規市民学芸員の育成 **令和4年度重点取組**

(事業の目標値：講座年8回以上、新規市民学芸員2人以上)

- ・ミュージアムサポーターの募集と育成
- ・市民学芸員『どんぐりの会』会報 (どんぐり便り) の発行
- ・地域史掘り起こし研究への支援
- ・グループ活動の支援
- ・館蔵資料整理

#### ⑥上総掘り技術伝承研究会活動の支援

- ・活動場所の確保
- ・資材調達
- ・活動PR
- ・補助金による活動援助 (動画制作ほか)

#### ⑦郷土博物館友の会活動の支援

- ・『友の会だより 51・52号』の発行
- ・友の会各グループ活動(凧の会・何でも有り会・仏像を学ぶ会・土器作りの会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会)への支援
- ・友の会グループ主催イベント(新春凧揚げ会、盆栽展示など)への支援
- ・凧の会が参加する「かずさの国 凧あげフェスタ」への協力
- ・「もっと知りたい講座」の開催

#### ⑧幼児期からの博物館体験

- ・そではくのもり (市民サロン) での親子での体験活動

### (3)市民の生涯学習拠点としての安全・安心な施設を提供します。

市民の快適な学習環境を整えるために管理施設の安全状況を把握し、安心・安全な施設を維持します。また、不具合が生じた箇所については、修繕等を行い、施設を維持管理していきます。

#### 施設管理事業

- ・安全点検の実施(月1回)

- ・避難訓練、消火訓練及び救急訓練の実施
- ・ I P M（日常的に収蔵環境を管理し、薬剤だけに頼らず文化財等をカビや虫等の有害生物から防除する方法：総合的病害生物管理）の理念に基づいた展示、収蔵環境管理の実践
- ・日常的な施設の維持管理及び修繕による安全確保

#### **(4)博物館としての独自性を追求します。**

学校・他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流・連携をより強化するとともに、袖ヶ浦公園・周辺の遺跡・歴史遺産を活用し、博物館と市民が融合した魅力的な博物館活動を継続します。

##### **①周辺施設との連携**

- ・公民館、図書館等社会教育機関でのアウトリーチ活動（出前講座・展示・現場出張サービス）
- ・袖ヶ浦公園・根形公民館との連携を強化し、事業の相乗効果をはかる。

##### **②郷土博物館実習生の受入**

- ・学芸資格取得を目指す学生に対して、博物館法施行規則第1条に定める「博物館実習」の機会を提供し、後進の育成を行う。

##### **③各博物館協会協議会等への参加**

- ・日本博物館協会、関東博物館協会、千葉県博物館協会、君津地方公立博物館連絡協議会へ参加し、各種団体及び機関との事業連携を図ります。
- ・千葉県史跡整備協議会事業への協力（大会会場市）

##### **④博物館周辺の景観整備**

- ・緑地管理
- ・万葉植物園等屋外附属施設管理
- ・公園管理組合との共通認識をもった管理

##### **⑤国県等の博物館施策及び文化財保護行政の動向把握**

- ・文化財保護法や文化芸術基本法の改正に基づく国県等の動向並びにこれからの博物館制度の動きを把握する。

##### **⑥庁内関係各課との連携**

- ・生涯学習課と連携し、文化財情報の共有や協働事業の実施により相乗効果を高める。
- ・公民館・図書館との連携。

### 3. 郷土博物館事業の記録

#### ①博物館協議会

博物館法第20条に基づいて博物館の運営に関し館長の諮問に応じ、博物館の各種事業企画等とともに、新たな博物館活動の指針となる『袖ヶ浦市郷土博物館の使命—そではく35の展望—』の策定について審議しました。

	時期・内容	人数
第1回博物館協議会	令和4年7月21日(木) 令和3年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について 令和4年度郷土博物館の運営に関する点検と評価における目標値について ほか	9人
第2回博物館協議会	令和4年11月18日(金) 『袖ヶ浦市郷土博物館の使命—そではく35の展望—』の運用に伴う郷土博物館の使命等の見直しについて 今後の博物館事業の展望について ほか	7人
第3回博物館協議会	令和5年2月28日(火) 博物館協議会委員長・副委員長の選出について 令和4年度郷土博物館事業の成果と課題について 令和5年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに令和5年度事業計画(案)について ほか	8人

#### ③ 博物館運営事業

博物館活動を円滑に遂行するための各種事務、並びに千葉県博物館協会・君津地方公立博物館協議会等の各種関係団体との情報交換・調査研究・研修等を行いました。

・君津地方公立博物館協議会研修会

12月21日(水) 第1回『市原歴史博物館「I' Museum Center」視察』

1月5日(木) 第2回「ふなばし三番瀬環境学習館視察」

3月10日(金) 第3回「博物館におけるデジタル発信について」

講師：北海道地図株式会社 河東 優 氏 鎌田 悠介 氏

・千葉県博物館協会研修会

1月19日(木) 「これからの博物館について～改正博物館法などの博物館に関わる法律を読み解く～」

講師：文化庁文化戦略官／博物館振興室長 井上 卓己 氏

・関東地区博物館協会研究会

6月9日(木) 第1回『なぜ「歴史館」なのか？—「茨城県歴史館」誕生の背景—』

講師：茨城県立歴史館 史科学芸部歴史資料課 特任研究員 永井 博 氏

10月19日(水) 第2回「植物標本デジタル画像化で広がる活用方法」

講師：兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授 高野 温子 氏

④ 調査研究事業

地域の歴史に関する資料の収集・保存等の調査や企画展に関する調査を行うとともに、学芸員の個別調査研究を進め、調査の成果を展示や教育普及事業等に活用することができました。

- ・袖ヶ浦市の縄文時代・弥生時代に関する調査
- ・袖ヶ浦市内の生物に関する調査
- ・中世荘園に関する調査
- ・旧石器時代・古代の植物利用の調査研究に関する調査 ほか

⑤ 教育普及事業

地域に根ざした博物館活動、市民の学習意欲に応えられる博物館活動の一環として、各種講習・講座の充実を図りました。ミュージアム・フェスティバルや自然と歴史の散策会等、コロナ禍において規模の縮小や中止していた事業についても、感染症対策を講じた上でほぼ通常通り開催することができました。

また昨年度に引き続き、上総掘りの技術を後世に残すため、技術伝承用の映像記録を作成しました。

★博物館講座「袖ヶ浦学」 (5回) 歴史・民俗分野を主としながらも、多角的に「袖ヶ浦」に迫る内容としました。	4月～3月	一般
第162回(友の会記念講演会)「弥生農耕の実像を探る」講師:大谷 弘幸 氏	4月24日(日)	34人
第163回「頼朝がたどった道」 講師:笹生 浩樹氏(菱川師宣記念館 館長)	8月28日(日)	35人
第164回「房総の富士講と富士塚」 講師:高橋 克氏(江戸川大学教授)	11月5日(土)	52人
第165回「そではく冬のバードウォッチング」 講師:大島 健夫氏(千葉市野鳥の会会長)	2月12日(日)	18人
第166回「横田郷・小坪館を歩いてみよう」 講師:葛田 昌也氏	3月11日(土)	18人
	合計	157人

<p><b>★第25回ミュージアム・フェスティバル</b></p> <p>郷土博物館開館が11月29日に開館40周年を迎えることから、記念事業も兼ねて11月に世代を越えた市民各層のふれあいの場として開催しました。袖ヶ浦高校吹奏楽部によるミュージアムコンサートや、コースター作りや土器作り等各種イベントを開催し、特に体験イベントは多くの親子連れで賑わいました。</p>	<p>11月26日(土)</p> <p>11月27日(日)</p>	<p>1,173人</p>
<p><b>★自然と歴史の散策会</b></p> <p>県内外の史跡・博物館等を見学し歴史に親しむとともに、市民の交流の場として事業を展開しています。新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、友の会会員の学習および親睦を深める講座として1回開催しました。</p>	<p>1月26日(木)</p>	<p>11人</p>
<p><b>★夏の子ども向けイベント</b></p>		
<p>夏休みジュニア学芸員体験「上池いきもの調査隊！」 (博物館実習関連事業 上池周辺の水中の生き物の捕獲・調査)</p>	<p>7月30日(土)</p>	<p>7人</p>
<p><b>★博図公連携事業等(公民館等体験事業、出前講座等のアウトリーチ)</b></p>	<p>通年</p>	
<p>市民会館子どもチャレンジ教室「万葉植物園を探検」</p>	<p>6月18日(土)</p>	<p>17人</p>
<p>袖ヶ浦市民会館・平川公民館乳幼児家庭教育学級「自然を探そう！みんなで散歩」</p>	<p>7月9日(土)</p>	<p>22人</p>
<p>袖ヶ浦公園管理組合 袖ヶ浦公園動植物観察会</p>	<p>中止 (COVID-19 対応)</p>	
<p>総合教育センターなつやすみ調べ学習相談会 (歴史・郷土、生物)</p>	<p>7月27日(水)</p>	<p>8人</p>
<p>市特別支援教育部研修(たたき染め)</p>	<p>7月28日(木)</p>	<p>22人</p>
<p>わんぱくクエスト (たたき染め・ナイトミュージアム・旧進藤家住宅宿泊)</p>	<p>7月28日(木)</p>	<p>23人</p>
<p>わんぱくクエスト (館内見学・ナイトミュージアム・コロネードおよび旧進藤家住宅宿泊)</p>	<p>7月29日(金)</p>	<p>23人</p>
<p>わんぱくクエスト (館内見学・火おこし体験)</p>	<p>7月30日(土)</p>	<p>7人</p>
<p>中川小学校教職員研修 (横田郷遺跡)</p>	<p>8月19日(金)</p>	<p>16人</p>

市民会館地域人材育成講座「袖ヶ浦駅前と奈良輪のまちーその発展の歴史に学ぶー」	10月16日(日)	12人
退職校長会研修会(平岡地区の歴史探訪)	10月18日(火)	9人
根形公民館地域発見講座(たたき染め)	10月20日(木)	11人
平岡公民館シニアセミナー(平岡地区散策)	11月2日(水)	18人
真光寺 川原井城跡ツアー	11月3日(木)	35人
市民会館地域人材育成講座『袖ヶ浦北口3kmウォーキング～奈良輪及び袖ヶ浦駅前の「道」を歩む』	11月19日(土)	10人
平岡公民館ハッピータイム(勾玉づくり・土器観察等)	11月19日(土)	28人
根形公民館地域再発見講座『根形周辺の「鎌倉街道」を歩こう』	11月30日(水)	21人
安房学講座「房総の熊野信仰ー西上総と安房を中心にー」	12月11日(日)	62人
社会教育推進員全体研修会「地域を支える社会教育とその役割」	12月20日(火)	19人
安房学講座「望陀布と古代・房総の紡織」	2月5日(日)	72人
海城サミット2023 in Chiba(海城に関する歴史トーク)	2月19日(日)	120人
千葉県立中央博物館連続講座「ジュニア自然誌研究クラブ」(袖ヶ浦公園の野鳥観察)	3月4日(土)	20人
波岡歴史講座「房総の熊野信仰ー西上総編ー」	3月7日(火)	10人
	合計	578人
<b>★考古学専門講座の開催(全4回)</b>	10月～2月	
そではく考古学講座～弥生時代研究最前線～(第1回) 講義「弥生時代の始まりは稲作からか」 講師: 郷土博物館 西原崇浩	10月15日(日)	17人
そではく考古学講座～弥生時代研究最前線～(第2回) 講義「房総半島の弥生時代」 講師: 千葉市教育新興財団 小林 嵩氏	12月3日(日)	21人
そではく考古学講座～弥生時代研究最前線～(第3回) 移動教室: 神奈川県横浜市大塚・歳勝土遺跡(ボランティア解説)、横浜市歴史博物館(自由見学)	1月15日(日)	22人
そではく考古学講座～弥生時代研究最前線～(第4回)	2月5日(日)	22人

回) 講義「そでがうらの弥生時代」 講師：袖ヶ浦市教育委員会 生涯学習課 助川 諒		
	合計	82 人
<b>★その他各種普及事業</b> 市民学芸員や博物館友の会のワークショップや単発的な各種講座等を開催しています。	通年	
【市民学芸員主催事業】子どもの日イベント「万葉植物園であそぼ一よ！」	5月5日(木)	233 人
親子で海苔すき体験会ー袖ヶ浦の海苔づくりをしろうー(令和3年度特別展「かつて見た袖ヶ浦の海ー海から見つめる袖ヶ浦の100年ー」関連) ※前年度延期事業 講師：鈴木 優氏	5月8日(日)	18 人
「盤洲干潟を知ろう！ 干潟の生き物観察会」 講師：盤洲干潟をまもる会	6月26日(日)	20 人
開館 40 周年記念企画展「富士山ー畏れ・敬い・憧れー」内覧会	9月30日(金)	29 人
開館 40 周年記念企画展「富士山ー畏れ・敬い・憧れー」関連事業 展示解説会 (第1回)	10月8日(土)	15 人
開館 40 周年記念企画展「富士山ー畏れ・敬い・憧れー」関連事業 展示解説会 (第2回)	11月26日(土)	5 人
開館 40 周年記念企画展「富士山ー畏れ・敬い・憧れー」関連事業 展示解説会 (第3回)	11月27日(日)	12 人
開館 40 周年記念企画展「富士山ー畏れ・敬い・憧れー」関連事業 展示解説会 (第4回)	12月10日(土)	10 人
企画展Ⅲ「袖ヶ浦の美術Ⅱ 傘寿記念 辻元大雲回顧書展」オープニング式典	3月25日(土)	60 人
企画展Ⅲ「袖ヶ浦の美術Ⅱ 傘寿記念 辻元大雲回顧書展」関連事業「ワークショップ『筆であそぼう！』」 講師：辻元 大雲氏	3月26日(日)	27 人
【市民学芸員協働事業】「お飾り作り」と古民家のメンテナンスボランティア	12月17日(土)	2 人
ミュージアム・フェスティバル「縄文土器をつくろう！」土器焼き	2月4日(土)	17 人

講師：友の会土器作りの会		
	合計	173人
<b>★上総掘りの技術記録映像制作</b> 国庫補助事業「民俗文化財等伝承・活用事業 上総掘りの技術」は令和2～5年の期間に実施し、令和3～5年度の3か年で上総掘りの技術を後世に伝承し継承するための映像記録を制作します。（各年1本制作） 今年度は関連講座として上総掘り体験講座と、単発で掘削体験講座を開催しました。	9月～3月	
上総掘り体験講座（第1回）「掘削準備／掘り始め」 講師：上総掘り技術伝承研究会	10月1日(土)	6人
上総掘り体験講座（第2回）「掘削と浚渫1」 講師：上総掘り技術伝承研究会	10月9日(日)	5人
上総掘り体験講座（第3回）「掘削と浚渫2」 講師：上総掘り技術伝承研究会	10月16日(日)	3人
上総掘り体験講座（第4回）「掘削と浚渫3」 講師：上総掘り技術伝承研究会	10月23日(日)	4人
上総掘り体験講座（第5回）「挽回作業について」 講師：上総掘り技術伝承研究会	10月29日(土)	5人
上総掘り体験講座（第6回）「竹通・塩ビ管をつくる」 講師：上総掘り技術伝承研究会	11月12日(土)	5人
上総掘り体験講座（第7回）「ミュージアム・フェスティバル」 講師：上総掘り技術伝承研究会	11月26日(土) 11月27日(日)	3人
上総掘り体験講座（第8回）「挽回作業」	12月3日(土)	5人
上総掘り体験講座（第9回）「樋の挿入と仕上げ」 講師：上総掘り技術伝承研究会	1月21日(土)	1人
上総掘り掘削体験講座（第1回） 講師：上総掘り技術伝承研究会	10月26日(水)	6人
上総掘り掘削体験講座（第2回） 講師：上総掘り技術伝承研究会	11月3日(木)	6人
上総掘り掘削体験講座（第3回）	11月9日(水)	雨天中止

講師：上総掘り技術伝承研究会		
	合計	49人
<b>★上総掘り技術伝承研究会の活動支援</b> 例年は博物館水のふるさと内で掘削等の活動をして いますが、令和4年度は、昨年度に引き続き博物 館が国庫補助事業として主催する「上総掘り体験講 座」へ講師として参加してもらいました。	通年	会員17人
<b>★友の会活動への支援</b> 7グループ(凧の会・土器作りの会・仏像を学ぶ会・ 何でも有り会、古文書いろはの会、機織りの会、盆 栽愛好会)が自主的に活動しています。 令和4年度は自主活動のほかに、昨年度に引き続 き館との協働事業として「もっとしりたい講座」を 実施したほか、会報「友の会だより」51・52号を発 行しました。	通年	会員60人
<b>【友の会協働事業】</b> もっと知りたい講座「巨樹・古 木が育つ場所 千葉県巨樹・古木の森づくり」 講師：NPO 法人樹の生命を守る会 副理事長 伊東 伴尾氏	12月11日(日)	53人
<b>【友の会協働事業】</b> かずさの国凧あげフェスタ	12月18日(日)	78人
<b>【友の会協働事業】</b> 袖ヶ浦市郷土博物館友の会「凧 の会」新春凧揚げ会	1月9日(月・祝)	150人
	合計	281人

## ⑥ 地域資料管理活用事業

館蔵資料（古文書等）の台帳作成及び整理や閲覧対応（デジタル公図を含む）のほか、収蔵資料の保存修復処理及び埋蔵文化財写真のデジタル化を行いました。収蔵環境の維持と整備にも努め、資料保存のための燻蒸処理、虫害等防止のための館内環境整備を行っています。また、会計年度任用職員を雇用し、収蔵庫の資料整理を行いました。さらに、これら博物館の収集・収蔵資料の整理・情報化の成果と、市民による調査研究等を発信するため、『袖ヶ浦市史研究』第21号を刊行しました。

- ・奈良輪漁組史料の保存・修復（42点）
- ・収蔵庫の資料整理及び適切な資料の保存
- ・収蔵資料の調査研究

- ・企画展開催に伴う収蔵民具及び古文書等の調査研究
- ・袖ヶ浦市史研究第 21 号編纂に伴う調査研究（奈良輪漁組史料、石川貞庵の診断書 ほか）
- ・収蔵資料のホームページでの公開
- ・ホームページの更新、SNS による情報発信
- ・古文書等表題データベース作成

### ⑦ 博学連携事業

博物館が学校と連携し、学校教育の中で、博物館の施設や資料を活用することで、子どもたちの経験値向上と郷土愛の育成を図りました。市内小学校 3 年生の昔の生活体験、6 年生の歴史体験のほか、小学生向け常設展示ワークシートの作成や、校区の史跡についてのテーマ学習等総合的な学習の時間に対応したアウトリーチを実施しました。また、体験学習等への市民学芸員（ボランティア）の参加により、大人も子供も育つ世代間交流の場としても機能しています。

校外学習支援	通年	市内の小学校 13 校 677 人
実物資料貸し出し	通年	2 件 16 点
学習相談	通年	17 件
教員対象研修の実施	通年	1 回
学校向けワークシートの作成・活用	通年	3 回
アウトリーチ活動(出前展示・出前授業)	通年	5 件 696 人
学校図書館との連携促進（物流システムの活用）	通年	2 件 5 冊
博物館実習生受入	通年	2 校 2 人

### ⑧ 展示更新推進事業

市民の知的要求に応え、リピーターの確保に努めるため、企画展 3 回・ロビー展 5 回を開催しました。企画展Ⅱは開館 40 周年記念企画展として、ワーキンググループを組織し市民学芸員と協働で実施しました。また、ロビー展では博物館企画展の足跡をたどるポスター展や、市民学芸員郷土を学ぶ会メンバーによる自主企画展等を行いました。さらに、付属施設となる旧進藤家住宅では、友の会盆栽愛好会による盆栽展や市民学芸員による雛飾り展示などで施設の有効活用を図りました。

なお、アクアラインなるほど館は受付を配置せず、見学要望がある時のみ開館しました。

<p><b>★常設展</b></p> <p>本館では、映像・歴史・民俗・昭和の暮らし・上総掘り・国史跡山野貝塚各部屋の展示及び情報提供によって、袖ヶ浦市の暮らしの移り変わりなどを理解しやすいものとなりました。アクアラインなるほど館・旧進藤家住宅・万葉植物園等の屋外展示施設の有効活用を図っています。</p> <p>また、市民の知的要求に応え、リピーターの確保に努めるため、歴史展示室の中世コーナーおよび1階水槽周辺への展示の追加を実施したほか、袖ヶ浦公園利用者に向けてとアクアラインなるほど館前に野鳥に関する展示を追加しました。</p>	本館	22,221人
	アクアラインなるほど館	412人
	旧進藤家住宅	14,653人
	合計	37,286人
<b>★特別展・企画展</b>		
企画展Ⅰ 収蔵資料展「くらだし・おひろめ2022」	4月30日(土)～ 7月30日(日)	5,062人
開館40周年記念企画展「富士山ー畏れ・敬い・憧れー」	10月2日(土)～ 12月18日(日)	5,977人
企画展Ⅲ「袖ヶ浦の美術Ⅱ 傘寿記念 辻元大雲回顧書展」	3月25日(土)～ 3月31日(金) 【会期3月25日(土) ～4月16日(日)】	1,106人 (3月31日 現在)
	合計	12,145人
<b>★本館ロビー展示・ミニ企画展</b>		
タイムカプセル収蔵品展示(本館ロビー展示)	4月16日(土)～ 5月20日(日)	2,625人
ポスターでふりかえるそではくの40年(本館ロビー展示)	1月5日(木)～ 2月3日(金)	1,617人
友の会「盆栽愛好会」早春花展(旧進藤家住宅)	4月22日(金)～ 4月24日(日)	332人
友の会「盆栽愛好会」秋季盆栽展(旧進藤家住宅)	10月28日(金)～ 10月30日(日)	432人
市民学芸員郷土を学ぶ会 自主企画展示「 <small>はいじょうけつ</small> 益状穴調査グループ調査報告」(特別展示室前通路パネル展示)※	4月1日(金)～ 4月10日(日)	1,064人

令和3年度継続事業	【会期1月22日(土) ～4月10日(日)】	
市民学芸員郷土を学ぶ会 自主企画展示「鎌倉街道」 (本館ロビー展示)	6月4日(土)～ 7月18日(月・祝)	4,737人
市民学芸員葉月の会 自主企画植物画展『ソデフロー ラIX』(本館ロビー展示) ※令和3年度継続事業	4月1日(金)～ 4月10日(日) 【会期3月27日(日) ～4月10日(日)】	1,064人
市民学芸員葉月の会 自主企画植物画展『ソデフロー ラ10』(本館ロビー展示)	2月5日(日)～ 2月26日(日)	1,954人
市民学芸員自主企画展示「五月人形」(旧進藤家住宅)	4月26日(火)～ 5月17日(火)	1,351人
市民学芸員自主企画展示「七夕」(旧進藤家住宅)	7月1日(金)～ 7月9日(土)	170人
市民学芸員自主企画展示「十三夜」(旧進藤家住宅)	10月6日(木)～ 10月10日(月・祝)	226人
市民学芸員自主企画展示「おひなさま」(旧進藤家住宅)	2月14日(火)～ 3月31日(金) 【会期2月14日(火) ～4月2日(日)】	3,247人
	合計	18,598人

#### ⑧市民学芸員協働事業

市民とともに歩む博物館の実現のため、市民学芸員を育成し、協働による博物館事業の実施や調査・研究活動の支援を行いました。

今年度も昨年度に引き続き、新規市民学芸員の獲得のため、通年での連続講座として市民学芸員養成講座を開催し、5名が新規加入しました。また、既存の市民学芸員の意識向上と学びサポートのため、フォローアップ研修を実施しました。さらに、企画展ワーキンググループと協働で企画展Ⅱ展示関連作業を行いました。

市民学芸員養成講座(第1回)「オリエンテーション/教育普及事業・博学連携事業と市民学芸員活動について」 ※講座生5名	4月16日(土)	6人
市民学芸員養成講座(第2回)「小学校6年生体験学習 スタッフ養成講座」	5月14日(土)	3人
市民学芸員養成講座(第3回)『博物館の仕事を見よう』	6月18日(土)	5人

「バックヤードツアー」		
市民学芸員養成講座(第4回)「IPMについて学ぼう」 ※博物館実習と合同開催	7月16日(土)	4人
市民学芸員養成講座(第5回)「そではく大解剖!そではく辛口採点会」	8月6日(土)	4人
市民学芸員養成講座(第6回)「博物館の調査研究とフィールドワークの心得」	9月10日(土)	5人
市民学芸員養成講座(第7回)「フィールドワーク実習」	10月8日(土)	5人
市民学芸員養成講座(第8回)「よその博物館を見に行こうー浦安市郷土博物館・船橋市郷土資料館の見学ー」	11月12日(土)	6人
市民学芸員養成講座(第9回)「小学3年生体験学習スタッフ養成講座」	12月10日(土)	3人
市民学芸員養成講座(第10回)「博物館の資料整理を体験しよう」	1月28日(土)	5人
市民学芸員養成講座(第11回)「修了式・記念講演」 ※第2回フォローアップ研修と合同	2月25日(土)	4人
市民学芸員第フォローアップ研修(第1回)八千代市立郷土博物館,千葉市郷土博物館見学	5月24日(火)	15人
市民学芸員第フォローアップ研修(第2回)「城跡あるきの基礎の基礎」 講師:木更津市教育委員会 松本勝氏	2月25日(土)	6人
子どもの日イベント「万葉植物園であそぼーよ!」 ※運営参加者	5月5日(木)	13人
市民学芸員自主企画展示「五月人形」(旧進藤家住宅) ※展示作業参加者	4月26日(火)~ 5月17日(火)	4人
市民学芸員自主企画展示「七夕」(旧進藤家住宅) ※展示作業参加者	7月1日(金)~ 7月9日(土)	3人
市民学芸員自主企画展示「十三夜」(旧進藤家住宅) ※展示作業参加者	10月6日(木)~ 10月10日(月・祝)	8人
【市民学芸員協働事業】「お飾り作り」と古民家のメンテナンスボランティア※準備・当日協力者	2月22日(火)	7人
市民学芸員自主企画展示「おひなさま」(旧進藤家住宅) ※展示作業参加者	2月14日(土)	13人

市民学芸員葉月の会 自主企画植物画展『ソデフローラ 10』※展示作業参加者	2月5日(日)～ 2月26日(日)	16人
全体会議・定例会 ※6月、9月、11月、12月、2月は中止	4月23日(土)	12人
	5月29日(日)	11人
	7月31日(日)	8人
	8月28日(日)	12人
	10月29日(土)	11人
	1月28日(土)	13人
	3月25日(土)	12人
体験学習協力 ※17回実施分の延べ人数	5月～2月	77人
万葉植物園整備 (万葉グループ活動)	通年	会員数 14人
植物作画活動 (葉月の会活動)	通年	会員数 9人
地域の史跡・文化財調査 (郷土を学ぶ会活動)	通年	会員数 4人
企画展ワーキンググループ	通年	グループ人数 13人

### ⑨施設管理事業

博物館施設として恒常的に適正な施設環境を整備するために、本館及び屋外展示施設等の維持管理(修繕・工事・清掃・警備委託・緑地管理・各種点検業務・資料くん蒸・環境測定等)を行いました。また、資料の適正な管理のため、収蔵庫の空調機を修繕し、年間を通してIPM(総合的有害生物管理:日常的に収蔵環境を管理し、薬剤だけに頼らず文化財等をカビや虫等の有害生物から防除する方法)の理念に基づいた展示環境・収蔵環境の管理を実践しました。

また、博物館来館者が安心・安全に見学できるよう月1回の安全点検と消防署の協力を得て、消火訓練を実施しました。

#### ・修繕 12件

煙感知器交換修繕

市民サロン及び民俗展示室雨漏り修繕 他

#### ・消防避難訓練

日にち:1月25日(水) 場所:旧進藤家住宅

内容:避難訓練・消火訓練

## 議題（１）令和４年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について

### 1 提案理由

博物館法第9条には、博物館の運営の状況の評価を行うとともに、博物館運営の改善をはかるため、必要な措置を講ずるよう努めなければならないことが規定され、公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準第4条第2項においては、博物館協議会の活用やその他の方法により点検と評価を行い、その結果を公表するよう努めることが示されている。

そのため、郷土博物館の活動目標及び活動計画でもある『袖ヶ浦市郷土博物館の使命—そではく35の展望—』（別添資料）に基づき、令和4年度郷土博物館の運営について点検と評価をしようとするものである

### 2 目標値設定の考え方

目標値については、数値目標の設定が難しいと判断し、これまで設定していなかったため、感覚的な評価になっていたが、客観的に博物館の運営について評価する必要があるため、35項目にわたる「あるべき姿」すべてに目標値を設置した。

目標値の設定にあたっては、前年に実施した取り組みの成果をもとに設定し、年度ごとに設定するものとする。数値目標が難しい項目については、客観的に評価できる目標値を設定することとする。

### 3 評価の方法

- ・「あるべき姿」の取り組み項目すべてに年度ごとに課題等を踏まえた目標値を設定し、実績値と達成度を示す。

達成度を◎ ○ △ ×の4段階で表示

- ◎：目標値に対して100%以上の達成率
- ：目標値に対して80%以上100%未満の達成率
- △：目標値に対して60%以上80%未満の達成率
- ×：目標値に対して60%未満の達成率

- ・評価の基準については、7つの活動目標単位ごとの目標値に対する達成度を

◎：30点、○：20点、△：10点、×：0点として活動指標ごとの平均値を出し、A、B、Cの3段階で評価

A：施策の効果が十分に図られている。（24点以上）

B：施策の効果が図られ、一定の成果があった。（24点未満18点以上）

C：施策の効果が十分に図られているとは言えず改善が必要である。

（18点未満）

#### 4 令和4年度「そではく35の展望」事業目標値と達成度

活動目標	あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
(1)地域の資料を守る－資料の収集と保管－	1.収蔵するすべての資料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。展望①	収蔵庫環境調査回数	2回	2回	◎
	2.市史編さん事業で収集・管理してきた古文書類が適正に管理され、活用できる環境が整っており、修復等が適正に行われている。展望②	収蔵資料の保存修復委託件数	1件	1件	◎
	3.地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、積極的に情報を集め、資料の収集にあたっている。展望③	資料購入を目的とした市場調査回数	1回	3回	◎
3項目 ◎3 90点 平均値30点			評価A		
(2)地域を探り、発信する－調査研究と成果活用－	1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。展望④	ロビー展示の開催回数	2回	4回	◎
	2.市民のニーズについて定期的に調査し、これらを反映させた調査研究が継続的に行われている。展望⑤	企画展アンケート実施回数	3回	3回	◎
	3.地域資料に関する情報が集積し、収蔵資料に関する情報が常に更新されている。展望⑥	ホームページで資料の公開件数	3件	3件	◎
	4.地域の自然・環境に関する調査研究が継続的に行われている。展望⑦	ジュニア学芸員体験の実施回数	1回	1回	◎
	5.調査研究の成果が公開されている。展望⑧	市史研究・袖ヶ浦学等で博物館職員の研究成果発表件数	2件	2件	◎
	6.高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家といった人材との交流ができています。展望⑨	考古学専門講座講師との情報交換件数	1件	1件	◎
6項目 ◎6 180点 平均値30点			評価A		
(3)学習・知的交流の拠点になる－展示更新と情報発信－	1.市民の意向を反映した常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている。展望⑩	常設展示の展示替え	1回	1回	◎
	2.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっており、展示から新たな発見や気づきがある。展望⑪	企画展・特別展に関連した刊行物の刊行	2件	2件	◎
	3.地域資料を有効活用した企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えるものとなっている。展望⑫	企画展・特別展見学者数	1回の見学者平均5,000人	5,519人	◎
	4.常設展の更新や企画展などについても、市民が自らの意志で参画している。展望⑬	市民学芸員自主企画展実施回数	5回	6回	◎
	5.情報機器やアプリ等が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。展望⑭	QRコードの活用	1件	0件	×

活動目標	あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
(3)学習・知的交流の拠点になるー展示更新と情報発信ー	6. 未来館者に対し、来館を促す工夫がされている。 展望⑮	ミュージアム・フェスティバルのボランティアの延べ人数	135人	108人	○
	7. 講座内容が市民のニーズを反映したものとなっている。 展望⑯	企画展・講座でのアンケート調査件数	5件	4件	○
	8. さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。 展望⑰	ホームページ更新件数	25回	26回	◎
	9. 図書室が調べ学習や個人研究に利用され、図書資料の活用が図られている。 展望⑱	図書室利用件数	10件	6件	△
	10. 利用者からの質問・相談に対応できる体制が整っている。 展望⑲	レファレンス件数	45件	43件	○
	11. 利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。 展望⑳	市民学芸員・友の会の自主活動による施設利用件数	130件	109件	○
11項目 ◎5 ○4 △1 ×1 240点 平均値 21.8点				評価 B	
(4)地域のつながりを活かすー市民参画と地域連携ー	1. 市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。 展望㉑	市民学芸員・友の会の会員数	105人	106人	◎
	2. 市民学芸員・友の会員を中心に、博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。 展望㉒	市民学芸員・友の会自主事業実施回数	5回	7回	◎
	3. 地域連携によって新たな価値や経済効果が発見・創造され、その成果が発信されている。 展望㉓	公民館講座への協力・講師派遣	3件	9件	◎
	4. 地域の学校と連携し、子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流が促進されている。 展望㉔	校外学習支援ボランティア（市民学芸員等）参加人数	延べ55人	延べ77人	◎
	5. 他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。 展望㉕	他団体との連携事業の実施回数	3回	4回	◎
5項目 ◎5 150点 平均値 30点				評価 A	
(5)安心・安全な施設にするー施設の維持管理と来館者への配慮ー	1. 管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、施設の維持管理が図られている。 展望㉖	施設の安全点検の実施回数	12回（月1回）	12回（月1回）	◎
	2. 包括的な社会の実現のため、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。 展望㉗	福祉施設見学受け入れ件数	30件	20件	△

活動目標	あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
(5)安心・安全な施設にする一施設の維持管理と来館者への配慮	3.危機管理マニュアルを整備し、防災訓練を実施している。 展望⑳	防災訓練の実施回数	年2回 (本館・旧進藤家住宅)	年1回 (旧進藤家住宅)	×
3項目 ◎1 △1 ×1 40点 平均値13.3点				評価C	
(6)博物館の社会的役割を意識する一地域への貢献	1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場であり、観光拠点でもある袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。 展望㉑	袖ヶ浦公園を活用した事業の実施回数	1回	2回	◎
	2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためにボランティアを育成し、魅力的な活動が継続されている。 展望㉒	市民学芸員養成講座実施回数	10回	11回	◎
	3.収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉についても貢献する。 展望㉓	高齢者学級等への協力回数	1回	1回	◎
3項目 ◎2 90点 平均値30点				評価A	
(7)博物館の個性を生かし、能力を伸ばす一自己研鑽と研修参加	1.館長は研修等により最新の情報を収集し、博物館の振興と運営改善に努めている。 展望㉔	国等が主催する会議に出席し、最新の情報を収集する回数	1回	1回	◎
	2.館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員を適正に配置し、研修等による資質向上に努めている。 展望㉕	国・県等が主催する研修に出席し、専門的知識を獲得する	3回	3回	◎
	3.他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会や、日頃の研究成果を発表する場が与えられている。 展望㉖	他機関が主催する研究会等で調査成果を発表した回数	1回	2回	◎
	4.館の業務が適切に行われるように、学芸員以外の職員を配置し、研修等による資質向上に努めている。 展望㉗	研修会に参加し、業務に必要な情報を収集した回数	1回	1回	◎
4項目 ◎4 120点 平均値30点				評価A	

令和4年度評価結果 ※ ( ) は令和3年度

◎：27項目(20項目)、○：4項目(14項目)、△：2項目(1項目)、×：2項目(0項目)  
7つの活動目のうち、A評価5、B評価1、C評価1

## ②運営の改善を図るため必要な措置

今後の対応欄の記載事項を必要な措置とする。

## 5 「そではく35の展望」評価結果と令和5年度の目標値

令和4年度の成果をもとに、令和5年度の目標値を設定する。

※令和4年度の目標値の考え方及び目標値を変更するものについて、網掛けにしている

参考として令和3年度の評価も記載しているが、令和3年度は、数値目標を設定していない

活動目標	あるべき姿	R4年度 評価	R3年度 評価	R5年度 目標値の考え方	目標値
(1)地域の資料を守る－資料の収集と保管－	1.収蔵するすべての資料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。①	◎	○	収蔵庫環境調査回数	2回
	2.市史編さん事業で収集・管理してきた古文書類が適正に管理され、活用できる環境が整っており、修復等が適正に行われている。②	◎	◎	収蔵資料の保存修復委託件数	1件
	3.地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、積極的に情報を集め、資料の収集にあたっている。③	◎	◎	資料購入を目的とした市場調査回数	3回
(2)地域を探り、発信する－調査研究と成果活用－	1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。④	◎	◎	ロビー展示の開催回数	2回
	2.市民のニーズについて定期的に調査し、これらを反映させた調査研究が継続的に行われている。⑤	◎	◎	企画展アンケート実施回数	2回
	3.地域資料に関する情報が集積し、収蔵資料に関する情報が常に更新されている。⑥	◎	○	ホームページで資料の公開件数	3件
	4.地域の自然・環境に関する調査研究が継続的に行われている。⑦	◎	◎	ジュニア学芸員体験の実施回数	1回
	5.調査研究の成果が公開されている。⑧	◎	◎	市史研究・袖ヶ浦学等で博物館職員の研究成果発表件数	2件
	6.高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家といった人材との交流ができています。⑨	◎	○	講座講師や資料調査の研究者との情報交換	3件
(3)学習・知的交流の拠点になる－展示更新と情報発信－	1.市民の意向を反映した常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている。⑩	◎	◎	常設展示の展示替え	1回
	2.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっており、展示から新たな発見や気づきがある。⑪	◎	◎	企画展・特別展に関連した刊行物の刊行	2件
	3.地域資料を有効活用した企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えるものとなっている。⑫	◎	◎	企画展・特別展見学者数	1回の見学者平均5,000人
	4.常設展の更新や企画展などについても、市民が自らの意志で参画している。⑬	◎	◎	市民学芸員自主企画展実施回数	5回
	5.情報機器やアプリ等が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。⑭	×	◎	QRコードの活用	1件

活動目標	あるべき姿	R4 年度 評価	R3 年度 評価	R5 年度 目標値の考え方	目標値
(3)学習・ 知的交流 の拠点に なるー 展示更新 と情報発 信ー	6. 未来館者に対し、来館を促す工夫がされている。⑮	△	○	ミュージアム・フェスティバルのボランティアの延べ人数	135 人
	7. 講座内容が市民のニーズを反映したものとなっている。⑯	○	○	企画展・講座でのアンケート調査件数	3 件
	8. さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。⑰	◎	◎	ホームページ更新件数	25 回
(3)学習・ 知的交流 の拠点に なるー 展示更新 と情報発 信ー	9. 図書室が調べ学習や個人研究に利用され、図書資料の活用が図られている。⑱	△	○	図書室利用件数	10 件
	10. 利用者からの質問・相談に対応できる体制が整っている。⑲	○	◎	レファレンス件数	45 件
	11. 利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。⑳	○	○	市民学芸員・友の会の自主活動による施設利用件数	130 件
(4)地域の つながり を活かす ー市民参 画と地域 連携ー	1. 市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。㉑	◎	◎	市民学芸員・友の会の会員の会員数	105 人
	2. 市民学芸員・友の会員を中心に、博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。㉒	◎	◎	市民学芸員・友の会自主事業実施回数	5 回
	3. 地域連携によって新たな価値や経済効果が発見・創造され、その成果が発信されている。㉓	◎	○	公民館講座への協力・講師派遣	3 件
	4. 地域の学校と連携し、子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流が促進されている。㉔	◎	◎	校外学習支援ボランティア（市民学芸員等）参加人数	延べ 55 人
	5. 他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。㉕	◎	○	他団体との連携事業の実施回数	3 回
(5)安心・ 安全な施 設にする ー施設の 維持管理 と来館者 への配慮 ー	1. 管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、施設の維持管理がはかられている。㉖	◎	○	施設の安全点検の実施回数	12 回（月 1 回）
	2. 包括的な社会の実現のため、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。㉗	△	○	福祉施設見学受け入れ件数	30 件
	3. 危機管理マニュアルを整備し、防災訓練を実施している。㉘	×	△	防災訓練の実施回数	年 2 回（本館・旧進藤家住宅）
(6)博物館 の社会的 役割を意 識するー 地域への 貢献ー	1. 周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場であり、観光拠点でもある袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。㉙	◎	○	袖ヶ浦公園を活用した事業の実施回数	1 回

活動目標	あるべき姿	R4 年度 評価	R3 年度 評価	R5 目標値の考え方	目標値
(6) 博物館の社会的役割を意識する一地域への貢献一	2. 博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためにボランティアを育成し、魅力的な活動が継続されている。⑳	◎	◎	市民学芸員養成講座 実施回数	10 回
	3. 収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉についても貢献する。㉑	×	○	高齢者学級・シニア グループ等への協力 回数	1 回
(7) 博物館の個性を生かし、能力を伸ばす一自己研鑽と研修参加	1. 館長は研修等により最新の情報を収集し、博物館の振興と運営改善に努めている。㉒	◎	◎	国等が主催する会議 に出席し、最新の情 報を収集する回数	1 回
	2. 館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員を適正に配置し、研修等による資質向上に努めている。㉓	◎	◎	国・県等が主催する 研修に出席し、専門 的知識を獲得する	5 回
	3. 他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会や、日頃の研究成果を発表する場が与えられている。㉔	◎	◎	他機関が主催する研 究会等で調査成果を 発表した回数	1 回
	4. 館の業務が適切に行われるように、学芸員以外の職員を配置し、研修等による資質向上に努めている。㉕	◎	○	研修会に参加し、業 務に必要な情報を収 集した回数	1 回

## 6 郷土博物館の運営の評価について

令和2年度 第2回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

- ・『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく30の展望－』の見直しについて提案

令和3年度 第2回袖ヶ浦市博物館協議会

- ・『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく35の展望－』を提示
- ・見直し内容の検討・審議

令和4年度 第1回袖ヶ浦市博物館協議会

- ・改正案『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく35の展望－』による令和3年度の点検と評価の結果を提示（試行的運用・評価基準は従来どおり）
- ・本格的運用の審議（令和4年度事業の点検と評価：議題2）

令和5年度 第1回袖ヶ浦市博物館協議会

- ・新たな評価方法に基づいた本格的運用についての審議
- ・教育委員会協議会報告
- ・ホームページ上で公表

## 7 関連法令

### ① 博物館法（抄）

（運営の状況に関する評価等）

第9条 博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

（運営の状況に関する情報の提供）

第9条の2 博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

### ② 公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準（抄）

（運営の状況に関する点検及び評価等）

第4条 博物館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の事業計画の達成状況その他の運営の状況について、自ら点検及び評価を行うよう努めるものとする。

2 博物館は、前項の点検及び評価のほか、当該博物館の運営体制の整備の状況に応じ、博物館協議会の活用その他の方法により、学校教育又は社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、当該博物館の事業に関して学識経験のある者、当該博物館の利用者、地域住民その他の者による評価を行うよう努めるものとする。

3 博物館は、前二項の点検及び評価の結果に基づき、当該博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

4 博物館は、第一項及び第二項の点検及び評価の結果並びに前項の措置の内容について、インターネットその他の高度情報通信ネットワーク（以下「インターネット等」という。）を活用すること等により、積極的に公表するよう努めるものとする。

# 令和4年度「そではく35の展望」の点検と評価

◎目標(あるべき姿)に限りなく到達した項目 ○目的にある程度達した項目  
 △取り組んだが目的に達しなかった項目 ×取り組まなかった項目

活動目標	あるべき姿	令和4年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(1) 地域の資料を守る —資料の収集と保管—	<p>そではく35の展望①</p> <p>1.収蔵するすべての資料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵庫内の温湿度の日常的な環境管理 第1収蔵庫 25℃ 湿度60%以下 第2収蔵庫 20℃、湿度55%前後 第3収蔵庫 21℃前後 湿度55%前後</li> <li>・収蔵環境調査(7月から11月の間で2回) ①昆虫類生息調査 ②空中浮遊カビ類調査 ③酸・アルカリ調査 ④有機酸濃度測定調査(1回目のみ) ⑤屋外昆虫侵入防止処理(1回目のみ)</li> </ul> <p>結果：ゴキブリ・イガ類・タバコシバンムシ・ヒメマルカツオブシムシ幼虫の生息が本館各所で見られ、資料への被害が懸念される。</p> <p>第2収蔵庫 酸性傾向 チャタテムシ類の生息増加 本館にゴキブリ類・キクイムシ類の侵入 カビ類が収蔵庫を除く館内全体に多く浮遊 ・収蔵庫内清掃、資料整理実施 ・資料燻蒸業務委託 アクアラインなるほど館で実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な管理により適切に保管している。</li> <li>・害虫の生息状況が確認でき、やるべき対策がわかった。</li> <li>・資料整理や清掃を行い、資料の現状把握をすることができた。</li> <li>・資料燻蒸をアクアラインなるほど館で実施することで、新規の収蔵資料も迅速に燻蒸し、収蔵庫へ収納できる流れが整っている。それにより、次の作業である資料整理もスムーズに行われている。</li> </ul> <p>【目標値】収蔵庫環境調査回数 目標値2回:実績値2回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2・第3収蔵庫について、温湿度を適正に管理するためには現状の空調機では老朽化による問題がある。故障により停止した場合、夏季では資料に影響を及ぼすほどの温湿度の上昇が考えられるので、異常に早く気づくために、平常時から注意が必要。</li> <li>・博物館の老朽化が著しく、資料を保存していくためには問題が多い。</li> <li>・コロナ対応による窓の開放と施設の老朽化により、館内に侵入する昆虫が増えている。</li> <li>・第2収蔵庫の酸性傾向が続いており、収蔵資料の確認が必要。</li> <li>・資料の館内持ち込みルールの徹底</li> <li>・床置き資料をなくし、</li> <li>・サーキュレーターなどを拡充し、カビの発生しにくい環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2収蔵庫については、令和5年度に更新工事を予定している。</li> <li>・収蔵庫の温湿度管理は継続して毎日記録し、変化があった場合は原因を追求する。収蔵庫の清掃と整理を日常的に行う。</li> <li>・大規模改修工事が未定のため、保存資料に影響を与えないように最低限の改修は行っていく。</li> <li>・第2収蔵庫については、フィルム等酸性に傾いた資料がないか確認する。</li> </ul>
	<p>そではく35の展望②</p> <p>2.市史編さん事業で収集・管理してきた古文書類が適正に管理され、活用できる環境が整っており、修復等が適性に行われている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧資料保存箱及び封筒に入っている資料を中性紙の資料保存箱及び封筒へ入れ替え。</li> <li>・古文書等の表題データベースを作成し、活用並びに情報公開に備えた。3,153点</li> <li>・収蔵資料の修復委託 ：旧奈良輪漁組文書(平成22年度～) 42点実施 768/1,132点 ：平成21年度～考古資料(鉄製品)の保存処理の業務委託(国庫補助事業) ※生涯学習課で実施(雷塚遺跡)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文書の箱と封筒の入れ替えを行い、古文書の適切な管理を進めた。</li> <li>・封筒の入れ替えに合わせ、市史目録の不備を補填し、目録の利便性を高めた。</li> <li>・入替作業の際に、収納方法を工夫してより多く1箱に入るようにし、収蔵庫の省スペース化を図った。</li> <li>・新収蔵古文書のデータベース化を進めた。</li> </ul> <p>【目標値】収蔵資料の保存修復委託件数 目標値1件:実績値1件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文書の読める作業者が少ないため、新収蔵古文書の整理に時間がかかる。</li> <li>・新収蔵古文書の活用のための目録が必要。</li> <li>・第3収蔵庫は飽和状態なため、さらに省スペース化を進める必要がある。</li> <li>・限られた予算の範囲内では1年に保存修復する点数に限られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文書の読める作業者の確保</li> <li>・市史目録8巻刊行以降に収蔵した古文書について、目録刊行に向けて作業を進める。</li> <li>・収蔵資料の保存修復は予算の範囲内で計画的に行っていく。</li> <li>・劣化しやすい近現代文書を中心に、古文書等の収蔵資料の劣化状況の確認し、修復に必要な資料を把握して優先順位をつける。</li> </ul>
	<p>そではく35の展望③</p> <p>3.地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、積極的に情報を集め、資料の収集にあたっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄贈・寄託資料の受入れ ：新規寄贈資料16件</li> <li>・寄託資料の更新99件</li> <li>・更新に伴う寄託から寄贈への移行 6件</li> <li>・古書店やインターネットへの市外流出資料の調査 3回、購入1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内外からの寄贈希望資料について精査し、地域資料としての価値を判断して受け入れを行った。</li> <li>・市民学芸員との協働により地域資料の情報を収集した。</li> <li>・ネットオークションに出品されている市外流出資料を発見し、購入することができた。</li> <li>・一度返却した目録掲載資料を寄贈資料として受け入れることができた。</li> </ul> <p>【目標値】資料購入を目的とした市場調査回数 目標値1回:実績値3回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄託者の代替わりにより、所蔵者と連絡が取れない寄託資料が出てきている。</li> <li>・返却した目録掲載資料については、現状を把握する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市外流出資料については、引き続き調査を行う。</li> <li>・現在博物館に寄託・寄贈されていない目録掲載資料について、現状確認を行う。</li> </ul>

活動目標	あるべき姿	令和4年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(2) 地域を探り、発信するー調査研究と成果活用ー	そではく35の展望④  1. 袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種情報の記録と管理、データベース等の活用による情報提供。</li> <li>調査研究やその成果の展示活動を行い、刊行物などによる情報公開               <ul style="list-style-type: none"> <li>：収蔵資料展「くらし・おひろめ2022」開催</li> <li>：企画展「富士山ー畏れ・敬い・憧れー」開催、図録刊行</li> <li>『袖ヶ浦市史研究』第21号刊行</li> <li>ロビー展示の開催 4回                   <ul style="list-style-type: none"> <li>：タイムカプセル収蔵品展示</li> <li>：ポスターでふりかえるそではくの40年</li> </ul> </li> <li>市民学芸員郷土を学ぶ会自主企画展示「鎌倉街道」</li> <li>：市民学芸員葉月の会植物画展示「ソデフローラ10」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が新たな価値を発見し、新たな学びの目的を創造できるような生涯学習の拠点となり、地域の歴史や文化を深く理解する機会を提供することができた。</li> <li>散策マップ等により、市内に限らず市外・県外からの利用者に対して、袖ヶ浦市内の歴史・文化の有効な情報を提供できた。</li> </ul> <p>【目標値】ロビー展示の開催回数 目標値2回:実績値4回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料や情報の整理が未完了。</li> <li>専門職員が足りず、対応が後回しになることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き地域資料や情報の収集及び整理に努める。</li> <li>散策マップや情報シート等の充実をはかる。</li> </ul>
	そではく35の展望⑤  2. 市民のニーズについて定期的に調査し、これらを反映させた調査研究が継続的に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展に伴うアンケートの実施 3回</li> <li>市民学芸員・友の会を会員を対象としたニーズ調査の実施</li> <li>テーマを設定した調査研究の実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>：袖ヶ浦市内の縄文時代・弥生時代に関する調査、袖ヶ浦市内の生物に関する調査、中世荘園に関する調査、民俗祭祀に関する調査</li> </ul> </li> <li>収蔵資料の精査</li> <li>市民学芸員と協働での企画展調査の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートにより、来館者のニーズを把握することができた</li> <li>市民学芸員定例会や友の会総会等で意見を収集することができた。</li> <li>考古学の最新の研究についての成果を考古学講座として市民に還元できた。</li> <li>企画展「富士山」に向けて市民学芸員と協働で調査を実施し、その成果を展示で活用することができた。</li> </ul> <p>【目標値】企画展アンケート実施回数 目標値3回:実績値3回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>来館しない市民のニーズ調査ができていない。</li> <li>他業務等により、職員の調査研究のための時間の確保や継続的に取り組むことが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来館しない市民へのニーズ調査を工夫する必要がある。</li> <li>事業のスクラップアンドビルドも検討し、調査研究できる状況を確保できるように努める。</li> </ul>
	そではく35の展望⑥  3. 地域資料に関する情報が集積し、収蔵資料に関する情報が常に更新されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館ホームページ上で収蔵資料の公開 3件</li> <li>古文書のデータベース化 3,153件（合計98,039件） ※令和5年3月現在</li> <li>会計年度任用職員を雇用して民俗資料、歴史資料のデータベース化と台帳作成</li> <li>収蔵資料の活用・公開               <ul style="list-style-type: none"> <li>閲覧28件・資料貸与4件・写真資料掲載許可取り扱い14件</li> </ul> </li> <li>埋蔵文化財ポジフィルムデジタル化 14遺跡分 (平成16年度～平成29年度まで委託により実施 令和2年度からは会計年度任用職員により実施)</li> <li>近年新たに収蔵した民俗資料のデータベース作成や台帳整備を行った。(会計年度任用職員雇用)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>寄贈などによる新規の資料・情報を収集・保管することができ、地域研究に資する資料の幅が広がった。</li> <li>埋蔵文化財写真のデジタル化を会計年度任用職員により実施した。</li> <li>資料整理に専従する会計年度任用職員を雇用し、近年受け入れた民具の把握と収蔵、データベース作成を進めることができた。合わせて、重複の多いもの、破損の著しいものについて、廃棄を行った。</li> </ul> <p>【目標値】ホームページでの資料の公開件数 目標値3件:実績値3件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>データベースが活用しやすい形になっておらず、こまめな更新ができていない</li> <li>所蔵者の代替わりにより、町史・市史の目録に掲載されている資料の散逸が懸念される。</li> <li>近年受け入れた民具の整理に時間を要する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より活用しやすいデータベースを工夫し、公開する。</li> <li>博物館から多くの人々に情報を提供し、地域資料の収集につなげる。</li> <li>返却された資料の現況調査の必要がある。</li> <li>近年受け入れた民具については、引き続き会計年度任用職員を雇用し、データベース作成等台帳を整備していく。</li> <li>収蔵庫の清掃や整理作業については、継続し、日常的に行っていく。</li> <li>埋蔵文化財写真デジタル化は、引き続き会計年度任用職員により実施する。</li> </ul>
	そではく35の展望⑦  4. 地域の自然・環境に関する調査研究が継続的に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度特別「かつて見た袖ヶ浦の海」で得た成果を袖ヶ浦市史研究に掲載した。</li> <li>令和5年度の企画展に向けて、外来生物・環境変化についての調査を実施した。</li> <li>ジュニア学芸員体験と合わせ、袖ヶ浦公園周辺の生物について調査を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別展で、海の生物・環境についての調査成果を公開することにより、さらなる情報収集や調査の機会へつなげることができた。</li> <li>ジュニア学芸員体験は、4年継続して実施し、データを蓄積することができた。</li> </ul> <p>【目標値】ジュニア学芸員体験の実施回数 目標値1回:実績値1回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門職員が配置されていないと定期的な調査やデータの蓄積が難しい。</li> <li>蓄積されたデータについて、公開する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き調査を継続し、データを蓄積していく。</li> <li>報告書の刊行等、蓄積されたデータの公開方法について検討する。</li> </ul>

活動目標	あるべき姿	令和4年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(2) 地域を探り、発信するー調査研究と成果活用ー	そではく35の展望⑧  5.調査研究の成果が公開されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>『袖ヶ浦市史研究』第21号の刊行</li> <li>企画展での調査研究成果公開。 <ul style="list-style-type: none"> <li>：企画展Ⅰ「くらし・おひろめ2023」</li> <li>：開館40周年記念企画展「富士山ー畏れ・敬い・憧れー」</li> </ul> </li> <li>企画展・特別展関連事業（展示解説会）による研究成果発表（13回）</li> <li>袖ヶ浦学による地域研究成果発表。</li> <li>考古学講座の実施による袖ヶ浦の弥生時代についての研究成果発表。</li> <li>ホームページで調査研究成果の公開 3件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『袖ヶ浦市史研究』第21号の刊行により、幅広いジャンルにわたる地域に関する最新の研究成果を集約することができた。</li> <li>調査研究の成果を企画展として公開し、また、図録刊行により、市民及び来館者に情報を還元することができた。</li> <li>袖ヶ浦学等の講座により、地域研究の成果を詳細に伝えることができた。</li> </ul> <p>【目標値】市史研究・袖ヶ浦学で博物館職員の研究成果発表件数 目標値2件:実績値2件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>市史研究及び袖ヶ浦学は、専門職員の研究成果発表の場として、より活用されるべきである。</li> <li>インターネットやSNS等を活用した研究成果公開はさらに進める必要がある。</li> <li>継続した研究体制ができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学芸員資格を持つ者を中心に、当市職員に呼びかけ、市史研究への寄稿や袖ヶ浦学での研究発表者を募る。</li> <li>インターネットやSNS等を活用した研究成果公開の方法について検討し、実施する。</li> </ul>
	そではく35の展望⑨  6.高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家といった人材との交流ができています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門研究者から袖ヶ浦市史研究への寄稿 8人</li> <li>講座での専門研究者の発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>：袖ヶ浦学、考古学講座</li> </ul> </li> <li>企画展へ向けた資料調査に係る先進の研究者による助言</li> <li>博物館実習生の受け入れによる学芸員後継者育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>：博物館実習生 2名</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講座等での講演などを通して、博物館の調査研究活動を共に行える研究者や人材との協力体制を作ることができた。</li> <li>企画展「富士山」では、現地の研究者との交流ができ、博物館活動に良い効果を得ることができた。</li> <li>次代を担う新たな学芸員を育成することができた。</li> <li>資料閲覧で来館する研究者に、袖ヶ浦市史研究での執筆を紹介する等、積極的に交流を試みた。</li> </ul> <p>【目標値】考古学専門講座講師との情報交換件数 目標値1件:実績値1件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流が一時的なもので継続性がない場合も多い。</li> <li>外部の研究者への効果的な情報提供のために、資料への理解や情報整理を進めておく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからも袖ヶ浦市史研究等を通して地域の新たな人材を掘り起こしていくとともに、大学などの研究機関と連携を深め、博物館活動への協力を求めていく。</li> <li>袖ヶ浦市史研究や袖ヶ浦学等で若手専門職員の研究成果発表の場を増やす。</li> </ul>
(3) 学習・知的交流の拠点になるー展示更新と情報発信ー	そではく35の展望⑩  1.市民の意向を反映した常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>常設展示の通史展示（中世）を部分的に更新した。</li> <li>調査研究の成果の一環として企画展を開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常設展示の更新や調査研究成果を活かした企画展などにより、新たな情報を利用者に提供することができた。</li> </ul> <p>【目標値】常設展示の展示替え 目標値1回:実績値1回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来的に新たな展示構想を改修計画とあわせて検討する必要がある。</li> <li>常設展示への市民の意向については、あまり把握できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き企画展等の調査研究の成果を常設展示の展示更新に活用していく。</li> <li>アンケート等により、来館者の意向を把握するように努める。</li> </ul>
	そではく35の展望⑪  2.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっており、展示から新たな発見や気づきがある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の資料を多く展示することで、身近なものとして捉えられるよう工夫した。</li> <li>企画展による新たな価値の創造 <ul style="list-style-type: none"> <li>：企画展Ⅰ「くらし・おひろめ2023」</li> <li>：開館40周年記念企画展「富士山ー畏れ・敬い・憧れー」</li> </ul> </li> <li>市民学芸員との協働による企画。 <ul style="list-style-type: none"> <li>：企画展Ⅲ「辻元大雲傘寿記念回顧展」</li> </ul> </li> <li>市内在住作家の書の展示。</li> <li>展示パネルは文字の大きさや読みやすさを重視し、記載内容もわかりやすくなるよう心掛けた。</li> <li>企画展チラシ・図録について、利用者に対し、展示内容理解の補助となるよう意識して作成した。</li> <li>常設展示は、企画展の成果を元に、利用者の共感を得やすいものを選定して展示替えした。</li> <li>入館者数 3館合計37,286人 (内訳：本館22,221人、アクアラインなるほど館442人、旧進藤家住宅14,653人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展Ⅰは、市民から寄贈された資料を中心に展示することで、市民の博物館参加を意識づけるとともに、普段見ることのできない資料整理等の博物館作業の裏側を垣間見せることができた。</li> <li>企画展「富士山」は、市民学芸員と協働で企画したことにより、市民の目線を展示に取り入れることができた。</li> <li>企画展Ⅲでは、市民から要望の高い芸術作品の展示を、作家との協働で開催することができた。</li> </ul> <p>【目標値】企画展・特別展に関連した刊行物の刊行 目標値2件:実績値2件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者が資料に関心を持ち、身近なものとして捉えるためには、まず職員それぞれが、収集資料をはじめとした地域資料について精査を続け、袖ヶ浦の魅力ある事象について見識を深める必要がある。</li> <li>資料を魅力的に見せるために、展示方法についても研究する必要がある。</li> <li>昭和時代など、利用者の共感を得やすい時期の資料はさらに展示を増やす必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が袖ヶ浦について知る・研究する時間をさらに多く設けるように努める。</li> <li>他館の展示の見学や最新の展示用品の情報を収集する等、展示手法についての調査研究を進める。</li> <li>昭和から平成といった近い時代の資料を多く収集し、親子や家族で楽しむ、世代間交流に貢献できる展示をさらに充実させるように努める。</li> </ul>

活動目標	あるべき姿	令和4年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(3) 学習・知的 交流の拠点 になる一 展示更新 と情報発信	そではく35の展望⑫	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資料を有効活用し、企画展を開催した。 ：企画展3回</li> <li>企画展入館者数12,145人 ：内訳 企画展Ⅰ5,062人           企画展Ⅱ5,977人           企画展Ⅲ1,106人（～3月31日）</li> <li>企画展・常設展示での収蔵資料活用 3件</li> <li>市民学芸員の研究成果を展示した。 ：自主企画ロビー展示「鎌倉街道」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資料を有効活用した企画展やロビー展示の開催により、袖ヶ浦市の新たな側面や魅力を市民にアピールし、学習意欲の向上にも貢献できた。</li> <li>市民学芸員の研究成果を展示することにより、さらなる学習意欲の向上に貢献した。</li> </ul> <p>【目標値】企画展・特別展の見学者数 目標値1回の見学者平均5000人 実績値 5519人(企画展Ⅲを除く)</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の世代交代が進行しており、市民の学習意欲にグローバルに対応できる職員の育成が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の多岐にわたる学習意欲に応え続けるためには、若手職員の調査研究及び学習の時間を多く設ける必要がある。</li> </ul>
	そではく35の展望⑬	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民学芸員自主企画展示を行った（6回） ：七夕展示 ：十五夜展示 ：旧進藤家住宅ひな人形展示 ：旧進藤家住宅五月人形展示 ：自主企画ロビー展示「鎌倉街道」 ：ソデフローラX 植物画展</li> <li>開館40周年企画展「富士山ー畏れ・敬い・憧れー」の開催に向けて、企画展ワーキンググループを結成し、調査・研究等の活動を行った。</li> <li>友の会盆栽の会による盆栽展を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民学芸員自らが展示を企画することで学習意欲の向上を促し、成果を上げることができた。</li> <li>企画展ワーキンググループは、月1回程度の全体ミーティングの他、チームや個人で調査研究を重ねることができた。</li> <li>盆栽展は、多くの方が来館し、旧進藤家住宅の活用と周知にも成果をあげることができた。</li> </ul> <p>【目標値】市民学芸員自主企画展実施回数 目標値5回:実績値6回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示・企画ができる市民学芸員が限られ、負担も大きいものとなっている。</li> <li>盆栽の会以外の友の会員もミュージアムフェスティバル以外に展示の機会を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民学芸員全体会議や定例会などで今後の企画展等について検討する。</li> <li>市民学芸員養成講座の内容を充実させ、企画・展示ができる市民学芸員を育成するとともに現在在籍している市民学芸員の育成にも力を入れる。</li> <li>ワーキンググループは今後も必要に応じて結成し、活動する。</li> <li>市民学芸員・友の会員の研究成果発表の場はさらに充実させる。</li> </ul>
	そではく35の展望⑭	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての来館者が展示を理解できるように、QRコード等の活用により、補足的な説明手段の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>QRコードについては、試験的に万葉植物園での運用を進めたが、本格的な実施には至らなかった。</li> </ul> <p>【目標値】QRコードの活用 目標値1件:実績値0件</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>万葉植物園のQRコード導入作業は、複数の職員で分担し、早期に実現させる必要がある。</li> <li>展示やホームページに多言語対応ができていない。</li> <li>館内のインターネット等の電波状況が悪い。</li> <li>外国人が展示を理解できるように展示解説などの多言語化が進んでいない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の職員で期間を決めて作業し、QRコードによる万葉植物園歌碑の補足説明を完成させる。</li> <li>多言語化については、日本語解説をわかりやすくすることから着手する。</li> </ul>
	そではく35の展望⑮	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミュージアム・フェスティバルを開催した。 ：ミュージアムフェスティバル入場者数 1,173人</li> <li>講座「袖ヶ浦学」 3回開催</li> <li>公民館等他の施設と連携し、講座での団体利用を促進した。 13回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>袖ヶ浦学は、企画展・特別展に関連して開催し、多くの参加者を得た。</li> <li>これまで、公民館は利用するが博物館へは来たことがなかった公民館講座生を新たな利用者として獲得することができた。</li> </ul> <p>【目標値】ミュージアムフェスティバルのボランティアのべ人数 目標値135人:実績値 108人</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館に全く来ない人へのアピール方法について、さらに検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報・周知の方法について、さまざまな媒体を活用できるようにする。</li> <li>公民館等との連携をさらに深め、新たな利用者の獲得につなげる。</li> </ul>

活動目標	あるべき姿	令和4年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(3) 学習・知的 交流の拠 点になる 一展示更 新と情報 発信	そではく35の展望⑯  7.講座内容が市民のニーズを反映したものとなっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 展覧会等でアンケート調査を実施して要望の把握に努め、公民館や他地域の博物館等と情報共有を行い、市民にどのような講座が求められているのかりサーチした。</li> <li>・ 「初歩から始める大人のための縄文講座」に引き続き、考古学専門講座を開催した。</li> <li>・ 市民の関心が高い上総掘りについて、連続講座を開催し、映像記録を作成した。 ：上総掘り講座 10回開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケートにより、個人が考えている要望とそのバックグラウンドを合わせて調査し、傾向と対策を分析することができた。</li> <li>・ 考古学専門講座により、縄文時代に続いて弥生時代について学びたいという要望に応えた。</li> <li>・ 他の社会教育施設の状況を知ることで、博物館には来ない人の傾向と要望を推測することができた。</li> </ul> <b>【目標値】企画展・講座でのアンケート調査件数 目標値5回:実績値4回</b>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート等に記された市民ニーズを丸呑みするのではなく、それを活用してさらに上の講座等を目指すには、対応する職員にも高い経験値が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケートは引き続き実施する。</li> <li>・ アンケート結果から、次年度の考古学講座は引き続き同じテーマで継続する。</li> <li>・ 公民館・図書館等、他の社会教育施設の講座や他の博物館の講座に参加するなど実体験に基づいた調査をする。</li> <li>・ 常に市民よりも上の知識を持てるように、職員が学ぶ意識を持ち続ける。</li> <li>・ 上総掘りについては引き続き講座を開催する。</li> </ul>
	そではく35の展望⑰  8.さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページ・ツイッターを利用したPR活動や情報提供。 ホームページ更新回数 26回</li> <li>・ 新聞、地域紙、ラジオ等の媒体を活用した情報提供。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種のメディアにより多くの人にPRすることができた。</li> </ul> <b>【目標値】ホームページ更新件数 目標値25回:実績値26回</b>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PR活動や普及事業などにより市内での認知度は高まったが、利用したことのない市民も未だ多い。</li> <li>・ SNS等に関する職員の知識が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新聞・雑誌・テレビ等、多くの市民が目に触れるようなメディアで取り上げられるために、積極的なPR活動を進める。</li> <li>・ 来館した人々が利用したメディア等について分析を行う。</li> <li>・ SNS等の調査研究を行い、効果的な活用方法を検討する。</li> </ul>
	そではく35の展望⑱  9.図書室が調べ学習や個人研究に利用され、図書資料の活用が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内小学校の物流ネットワークによる蔵書や資料などの貸出サービス</li> <li>・ 図書室での図書閲覧やコピーサービス</li> <li>・ 図書室を利用しやすいように整備した。 図書室利用件数 6件</li> <li>・ 博物館の蔵書情報を図書館や総合教育センターに提供した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物流ネットワークによる資料の貸出の体制を利用できた。</li> <li>・ 図書室や学芸員室の図書について、市民学芸員や友の会員等に貸出を行い、活用を促進した。</li> <li>・ 博物館の蔵書情報を図書館や総合教育センターと共有することができた。</li> </ul> <b>【目標値】図書室利用件数 目標値10件:実績値6件</b>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書掲示板が利用できなくなったことにより、物流ネットワークについては今一つ利用が促進されてない。</li> <li>・ 図書室が常時開館していないので、利用しにくく、利用が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校図書館司書と直接情報交換するなど、学校教育のニーズを把握するように努め、物流ネットワークをさらに活用できる体制を整える。</li> <li>・ 図書室常時開室へ向けて検討する。</li> </ul>
	そではく35の展望⑲  10.利用者からの質問・相談に対応できる体制が整っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種問い合わせに応じるとともに、レファレンス情報を記録し、共有した。 レファレンス件数43件</li> <li>・ 問い合わせが多かった鎌倉街道については、マップを作成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問い合わせについて随時対応することで、利用者の知的欲求に応えることができた。</li> <li>・ 利用者からの質問・相談について情報を共有することで、より専門性の高い職員に引き継ぐことができた。</li> </ul> <b>【目標値】レファレンス件数 目標値45件:実績値43件</b>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 質問・相談の内容によっては、対応できる職員に限られる。</li> <li>・ 上総掘りは 技術についての問い合わせが多いが、後継者の育成の遅れや、民俗学専門の学芸員が不在のため、対応が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 簡易な質問については誰でも答えられるように、説明シート等の充実をはかる必要がある。</li> <li>・ 上総掘りの高度な問い合わせにも対応できる民俗学専門の学芸員を配置する必要がある。</li> </ul>
	そではく35の展望⑳  11.利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民学芸員や友の会員は、研修室・体験学習室・図書室等を活用し、グループ活動を行った。 活動件数 109回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民学芸員・友の会員は各自の活動に博物館の施設を活用することができた。</li> </ul> <b>【目標値】市民学芸員・友の会の自主活動による施設利用件数 目標値130件:実績値109件</b>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般の利用者同士が交流できるスペースがない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者同士が交流できるスペースの設置について、検討する必要がある。</li> </ul>

活動目標	あるべき姿	令和4年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(4) 地域のつながりを活かすー市民参画と地域連携ー	そではく35の展望⑲	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民学芸員や友の会の活動を通して、博物館事業に市民が参画し、体験学習の支援やイベントでの役割を担っている。               <ul style="list-style-type: none"> <li>市民学芸員 43名</li> <li>博物館友の会 63名</li> </ul>               (令和5年3月末現在)             </li> <li>市民学芸員養成講座の通年開催 11回</li> <li>上総掘り技術伝承研究会との協働による上総掘り講座の実施と記録映像撮影               <ul style="list-style-type: none"> <li>上総掘り技術伝承研究会員 16名</li> <li>上総掘り体験講座回数 10回</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民学芸員や友の会会員などの地域の人々が博物館活動に参画することで、事業運営の原動力となっている。</li> <li>市民学芸員養成講座の通年開催により、新たに5名が市民学芸員となった。</li> <li>上総掘り講座と記録映像により、上総掘り技術の担い手育成の基盤が整った。</li> <li>市民学芸員・友の会といった形にこだわらず、博物館活動に協力してくれる市民も存在する。</li> </ul> <p>【目標値】市民学芸員・友の会の会員数 目標値105人:実績値106人</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加する市民学芸員・友の会員の固定化や高齢化が進んでいる。</li> <li>新規参加者についても、継続のための工夫が必要。</li> <li>市民学芸員・友の会といった形にこだわらない協力者との新たな協力体制の確立。</li> <li>市民学芸員と友の会会員との交流が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな媒体により活動についての情報を公開し、多くの人々が活動に関心を持てるように促す。</li> <li>講座や活動サポートにより、継続できるように支援する。</li> <li>市民学芸員養成講座は引き続き通年で開催する。</li> <li>市民学芸員と友の会合同の研修会等を企画する。</li> </ul>
	そではく35の展望⑳	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展、ロビー展及び関連事業の実施</li> <li>市民学芸員・友の会との自主企画展の実施 7回</li> <li>友の会主催「もっと知りたい講座」開催</li> <li>博物館を拠点として活動している団体による地域貢献               <ul style="list-style-type: none"> <li>市民学芸員郷土を学ぶ会 公民館講座等への出前講座</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展や講座などの開催により、学びの拠点となった。</li> <li>友の会・市民学芸員の活動により地域の団体との連携を深めることができた。</li> <li>市民学芸員の活動も含め、公民館講座等で博物館の研究成果を発表することが出来た。直近の公民館である根形公民館とは相互協力ができた。</li> </ul> <p>【目標値】市民学芸員・友の会自主事業実施回数 目標値5回:実績値7回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館を利用する団体相互の連携については、あまり進んでいない。</li> <li>公民館講座への出前は増えているが、公民館サークル等による自主的な博物館利用は確認できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館を利用する機関・地域・団体等団士の連携を博物館がサポートする。</li> <li>根形地区については、博物館を中心に袖ヶ浦公園・根形公民館といった施設が一体化して、学びと楽しみの拠点となれるようにイメージを構築する。</li> <li>公民館・図書館との連携をさらに促進する。</li> </ul>
	そではく35の展望㉑	<ul style="list-style-type: none"> <li>根形公民館との連携を強化した。</li> <li>市民学芸員郷土を学ぶ会作成の「袖ヶ浦散策」や「行ってみようマップ」を活用し、博学連携や公民館講座で地域散策を行った。</li> <li>夏の単発イベントや公民館講座との連携で、袖ヶ浦公園を活用した。</li> <li>公民館との連携の促進               <ul style="list-style-type: none"> <li>根形公民館地域再発見講座等、公民館講座への出前講座</li> <li>協力した公民館講座の件数：9件</li> <li>根形公民館報 原稿提供1件</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>根形公民館地域再発見講座で博物館を多く利用し、相互に交流ができた。</li> <li>博物館が歴史や文化び拠点であること、情報を集積させている施設であることを印象付けることができた。</li> <li>市民会館等、公民館の講座等での利用が拡大し、博物館の活動について、さらに多くの市民に周知することができた。</li> </ul> <p>【目標値】公民館講座への協力・講師派遣 目標値3件:実績値9件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携による袖ヶ浦公園などを活用した取り組み成果を発信できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民学芸員郷土を学ぶ会が作成した「袖ヶ浦散策」を活用し、各地域との連携を深める。</li> <li>地域連携による成果を発信できるように努める。</li> </ul>
	そではく35の展望㉒	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校3年生、6年生の校外学習支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>13校 (3年生7校、6年生6校)</li> <li>ボランティア参加延べ人数 77人</li> </ul> </li> <li>実物資料、教材の貸し出し 5件</li> <li>教育カリキュラムに応じたアウトリーチの実施 6件 (小学校3・中学校1・高校2)</li> <li>小中学生の調べる学習への支援 13件</li> <li>教員経験者を社会教育指導員として配置し、博学連携事業に多く参加してもらった。</li> <li>山野貝塚体験学習プログラムの構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館が学びの場として市内の子どもたちに利用され、教科書では得ることのできない実物資料や、より深い知識を獲得する教育環境を提供し、活用された。</li> <li>袖ヶ浦高校の協力により、高校へのアウトリーチが実現した。</li> <li>教員経験者が博物館職員として博学連携に関わることで、連携が蜜になり、学校と博物館の距離が近くなった。</li> <li>山野貝塚体験学習プログラムの構築により、中学校へのアピールができた。</li> </ul> <p>【目標値】校外学習支援ボランティア(市民学芸員等) 目標値延べ55人:実績値延べ77人</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の影響により一部の体験メニューが実施できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の拡大等、さまざまなシチュエーションを想定し、アウトリーチの拡大や新たなプログラムの開発等について、さらなる検討が必要。</li> <li>博物館側も指導要領や教材等の研究を行い、学校側の実情について理解を深める。</li> </ul>

活動目標	あるべき姿	令和4年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
	そではく35の展望⑳  5.他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内外施設や機関へ講師等の派遣、講座等への協力 22件（公民館講座含む）</li> <li>・君津地方公立博物館協議会へ参加 ：研修会、合同調査など広域地域連携の実現を図った。</li> <li>・千葉県博物館協会への参加</li> <li>・千葉県史料保存活用連絡協議会への参加</li> <li>・NPOとの連携。 ：情報交換（しいの森里山会、盤洲干潟を守る会）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育機関や他市博物館と連携を深めることができた。</li> <li>・千葉県資料保存活用協議会では、連絡誌に執筆の機会を得て、博物館の取り組みをアピールすることができた。</li> <li>・交流のあるNPO団体の会員が市民学芸員に参加し、情報交換や交流のしやすい状況が整った。</li> </ul> <b>【目標値】他団体との連携事業の実施回数 目標値3回:実績値4回</b>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に地域の企業やNPOとの連携が図れていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業やNPO等へ博物館の活用できる施設や資料についてアピールする機会を設ける。</li> </ul>
(5) 安心・安全な施設にするー施設の維持管理と来館者への配慮ー	そではく35の展望㉑  1.管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、施設の維持管理がはかられている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な施設、設備の点検の実施</li> <li>・急な故障や破損等の修繕：修繕12件</li> <li>・計画的な修繕工事 令和4年度実施なし</li> <li>・月1回の安全点検の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経年劣化や設備の故障等については、それぞれ予算の範囲内で対応し、不具合を改善した。</li> <li>・博物館施設や設備の老朽化や不具合について調査を行い、修繕・改修の優先順位を把握し、対応について検討した。</li> </ul> <b>【目標値】施設の安全点検の実施回数 目標値12回(月1回):実績値12回</b>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年々、施設の老朽化が進んでおり、不具合が発生する。</li> <li>・不具合の発生に伴い、事務の対応に時間を有する。</li> <li>・改修計画が立てられていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修繕等が必要な不具合箇所については関係部局と協議を行う。</li> <li>・展示リニューアルも含めた大規模改修工事が実施できるよう庁内で調整をはかる。</li> </ul>
	そではく35の展望㉒  2.包摂的な社会の実現のため、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者施設の団体受入れを積極的に進めた。20件（159人）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者施設からは2階昭和のくらしコーナーが好評であり、リピーターも多く獲得した。</li> <li>・特別展は、かつて漁業に従事していた高齢者からも好評であった。</li> </ul> <b>【目標値】福祉施設見学受け入れ件数 目標値30件:実績値 20件</b>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館全体的なユニバーサルデザイン計画がなく、施設改修については実施できていないため、以前からの施設的な課題は解消されていない。</li> <li>・外国人でも見学できる環境（多言語化対応）が整備されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザイン設計を進めている博物館等の先進事例を調査し、施設改修計画に合わせて検討していく必要がある。</li> <li>・外国人への環境整備については、可能なことから対応を進める。</li> <li>・利用者からの要望をリサーチする必要がある。</li> </ul>
	そではく35の展望㉓  3.危機管理マニュアルを整備し、防災訓練を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧進藤家住宅において防災訓練を実施した。1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練により、災害時にとるべき行動や消火活動等を確認することができた。</li> </ul> <b>【目標値】防災訓練の実施回数 目標値年2回(本館・旧進藤家住宅):実績値1回(旧進藤家住宅)</b>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本館で避難訓練を実施していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本館の避難訓練の計画を立てる。</li> </ul>
そではく35の展望㉔  1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場であり、観光拠点でもある袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏の単発イベント「ジュニア学芸員講座」の袖ヶ浦公園周辺での実施</li> <li>・袖ヶ浦公園主催事業への協力</li> <li>・市原歴史博物館との協力体制の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・袖ヶ浦公園内にあるという立地を生かした企画や袖ヶ浦公園管理組合のほか、関係団体と連携した取り組みを実施することにより、歴史系の事業だけではなく、自然系事業など魅力的な事業展開を行うことができた。</li> </ul> <b>【目標値】袖ヶ浦公園を活用した事業の実施回数 目標値1回:実績値2回</b>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学や研究機関と連携した事業展開が図れていない。</li> <li>・袖ヶ浦公園については、さらなる活用が考えられる。</li> <li>・市原歴史博物館とは、今後更なる協力体制の強化が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別展等の成果を元に、大学や研究機関との連携について検討する。</li> <li>・袖ヶ浦公園を活用した魅力ある企画を検討する。</li> <li>・他機関との連携について、先進事例を調査する。</li> <li>・市原歴史博物館との連携を進める。</li> </ul>	

活動目標	あるべき姿	令和4年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(6) 博物館の社会的役割を意識する一地域への貢献一	そではく35の展望⑩  2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためにボランティアを育成し、魅力的な活動が継続されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民学芸員の地域の歴史や文化財の調査への活動支援 地域文化財データベース配布と自主企画展、関連講座開催の支援</li> <li>市民学芸員養成講座による、調査のできるボランティアを育成</li> <li>市民学芸員との協働による企画展へ向けた調査研究</li> <li>フォローアップ研修による市民学芸員の長期的な育成 2回</li> <li>山野貝塚ボランティア育成の協力 (生涯学習課事業)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民とともに調査を行うことにより、市民への文化財保護の意識向上につながった。</li> <li>市民学芸員の活動に調査成果公開の場を設けることで、より大きな達成感を得ることができた。</li> <li>企画展という具体的な目標を持つことにより、活動を計画的に進めることができた。</li> <li>研修に参加することで市民学芸員や山野貝塚ボランティアの向学心を刺激することができた。</li> </ul> <p>【目標値】市民学芸員養成講座実施回数 目標値10回:実績値11回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館と市民が一体となった調査研究活動が行われていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保護活動に対して市民が積極的に参画できるような講座を企画し、博物館とともに研究できるような人材を育成する。</li> <li>研究発表しやすい環境を整える。</li> <li>企画展開催や報告書刊行など、調査の成果として具体的な目標を掲げる。</li> </ul>
	そではく35の展望⑪  3.収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉の向上についても貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者との交流、回想法の試み : 高齢者施設の見学受入れ : 公民館高齢者学級の見学等受入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示見学を通し、高齢者の心身の健康維持に貢献することができた。</li> </ul> <p>【目標値】高齢者学級への協力回数 目標値1回:実績値1回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで単発的な活動しかできていない。</li> <li>公民館高齢者学級等との連携がなされていない。</li> <li>戦争体験等のある高齢者が年々少なくなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に高齢者が集まり、意見交換できる場を整える。</li> <li>公民館講座との連携や屋外施設を活用した健康講座の実現に向けた情報提供。</li> <li>戦争体験等について聞き取りを行う。</li> </ul>
(7) 博物館職員の個性を生かし、能力を伸ばす一自己研鑽と研修参加一	そではく35の展望⑫  1.館長は、研修等により最新の情報を収集し、博物館の振興と運営改善に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国博物館長会議への出席</li> <li>文化庁・東京文化財研究所等が主催する研修会・会議への出席</li> <li>日本博物館協会・関東地区博物館協会・千葉県博物館協会・千葉県史料保存活用協議会・君津地方公立博物館協議会が主催する研修会・会議への出席</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国博物館長会議（オンライン）に参加し、最新の博物館事情を収集して、博物館運営の参考とすることができた。</li> <li>関東地区博物館協会・千葉県史料保存活用連絡協議会の理事を務め、他館の館長と情報を共有することができた。</li> </ul> <p>【目標値】国等が主催する会議に出席し、最新の情報を収集する回数 目標値1回:実績値1回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠方で開催される会議・研修会も多く、日本博物館協会・関東地区博物館協会以外が主催する研修会の情報については伝わりにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開催についての情報を収集し、遠方でも必要な会議等には出席できるようにする。</li> <li>オンライン会議には積極的に参加する。</li> </ul>
	そではく35の展望⑬  2.館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員を適正に配置し、研修等による資質向上に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化庁・東京文化財研究所等が主催する研修会等への出席</li> <li>日本博物館協会・関東地区博物館協会・千葉県博物館協会・千葉県史料保存活用協議会・君津地方公立博物館協議会が主催する研修会等への出席</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>千葉県博物館協会・千葉県史料保存活用連絡協議会・君津地方公立博物館協議会が主催する研修会等に参加し、知見を深めることができた。</li> <li>千葉県博物館協会の地域振興委員を務め、他館の職員との交流し情報を共有することができた。</li> </ul> <p>【目標値】国・県等が主催する研修に出席し、専門的知識を獲得する。 目標値3回:実績値5回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠方で開催される会議・研修会も多く、日本博物館協会・関東地区博物館協会以外が主催する研修会の情報については伝わりにくい。</li> <li>研修等で得た人脈を活用し、研修後も情報交換等で交流を続けることが望ましい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開催についての情報を収集し、遠方でも必要な研修会には出席できるようにする。</li> <li>オンライン開催には積極的に参加する。</li> </ul>
	そではく35の展望⑭  3.他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会や、日頃の研究成果を発表する場が与えられている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本考古学協会等、研究機関が主催する研修会等への参加</li> <li>君津地方社会教育研究会への参加</li> <li>『袖ヶ浦市史研究』等への寄稿</li> <li>他機関から依頼された講座での講演。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>君津地方社会教育研究会主催の研修会に参加し、知見を深めるとともに、他市職員と交流し情報を共有することができた。</li> <li>根形公民館地域再発見講座をはじめ、他機関で講演することで、博物館活動の一端を周知させることができた。</li> </ul> <p>【目標値】他機関が主催する研究会等で調査成果を発表した回数 目標値1回:実績値2回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人で参加した研究会等の館内での情報共有。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、交流や発表の機会があれば活用し、有益な情報があれば館内で共有する。</li> </ul>
	そではく35の展望⑮  4.館の業務が適切に行われるように、学芸員以外の職員を配置し、研修等による資質向上に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>千葉県博物館協会・君津地方公立博物館協議会・君津地方社会教育研究会主催の研修会への事務職員の参加</li> <li>その他研修会への事務職員の参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明会等に参加し、そこで得た情報を館内で周知し、職員間で情報共有することができた。</li> </ul> <p>【目標値】研修会に参加し、業務に必要な情報を収集した回数。 目標値1回:実績値1回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務職員の研修の機会が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望する研修会には出席できるようにする。</li> </ul>

		内容等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
博物館協議会		年3回開催				7/21(金)第1回							第3回	
博物館運営事業														
教育普及事業	ミュージアム・フェスティバル	年1回開催		第2回実行委員会	10(土)・11(日)第3回実行委員会									
	講座 袖ヶ浦学	年5回開催	23(日)第167回袖ヶ浦学(友の会共催)「城からたどる袖ヶ浦の戦国時代」			22(土)第168回袖ヶ浦学「拓本ってなに？」		2(土)(仮)第169回袖ヶ浦学				27(土)第170回袖ヶ浦学「袖ヶ浦のお医者さん列伝」	17(土)第171回袖ヶ浦学「野鳥観察会」	
	博物館学芸員実習	7/25-8/3(7日間)5名募集	・大学からの実習依頼文 ・回答			実習予定表作成・送付 7/25(火)～8/3(木)(7日間)博物館実習	7/25(火)～8/3(木)(7日間)博物館実習 大学宛評価表送付					令和6年年度要項作成・HP掲載		
	その他			5(水)企画展関連こどもの日イベント		29(土)～30(日)ジュニア学芸員体験拡大版		そではく考古学講座①10/7	そではく考古学講座②10/28	10/29(予備日11/12)企画展関連講座	そではく考古学講座③12/9上総掘り講演会	そではく考古学講座④1/13	そではく考古学講座⑤	
博学連携事業	校外学習支援等	体験学習支援 学習相談対応 資料・図書貸出			小学校6年生 校外学習							小学校3年生 校外学習		
	出前授業・展示	アウトリーチ 出前展示の実施												
	その他													
展示更新推進事業	特別展・企画展	企画展年2回開催		4/29(土)～7/30(日)※期間延長 企画展Ⅰ「井出先生の写真館」 展示解説会:5/6(土)、6/10(土)、7/1(土)					10月7日(土)～12月17日(日) 企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」 展示解説会:10/15(土)、11/19(土)、12/9(土)					
	トピックス展 ミニ展示											ロビー展示「日本の郷土風」		ロビー展示「ソデフローラ11」(仮)
	旧進藤家住宅		21日(金)～23日(日)盆栽展								盆栽展			ひな人形展示(旧進藤家住宅)
	万葉植物園	屋外施設の活用												
地域資料管理活用事業	資料管理活用	・収蔵資料保存管理活用 ・資料燻蒸 ・環境調査委託			環境調査(1回目)				環境調査(2回目)			資料燻蒸		
	史料修復 奈良輪漁協				史料修復委託執行伺い・契約 6/1募集開始						史料修復成果品納品			
	『市史研究』第22号	要項整備・原稿募集							原稿募集締め切り					
市民学芸員協働事業	市民学芸員活動	体験学習支援 自主企画展企画ほか ・万葉グループ第3土曜日午前活動(万葉植物園) ・葉月の会 第3土曜日午後活動(体験学習室)	市民学芸員フォローアップ研修		10(土)・11(日)ミュージアム・フェスティバル		十五夜コンサート		5(木)フォローアップ研修(バス移動講座)※仮 中型バス予約		お飾りづくり		24(土)市民学芸員フォローアップ研修(市民学芸員養成講座と合同)	お雛様飾り
	市民学芸員養成講座	年間11回・広報で募集	22(土)市民学芸員養成講座①オリエンテーション	13(土)市民学芸員養成講座②小学校6年生体験学習スタッフ養成講座	24(土)市民学芸員養成講座③博物館の仕事を見よう「バックヤードツアー」	22(土)市民学芸員養成講座④IPMIについて学ぼう(博物館実習と合同)	市民学芸員養成講座⑤そではく大解剖！そではく辛口探点会	9(土)市民学芸員養成講座⑥博物館の調査研究とフィールドワークの心得	14(土)市民学芸員養成講座⑦フィールドワーク実習	11(土)市民学芸員養成講座⑧よその博物館を見に行こう(バス移動講座)	9(土)市民学芸員養成講座⑨小学校3年生体験学習スタッフ養成講座	20(土)市民学芸員養成講座⑩資料整理の基礎	24(土)市民学芸員養成講座⑪修了式・記念講演会(フォローアップ研修と合同)	
施設管理事業		施設の修繕・工事等 ・収蔵庫2系統空調 ・浄化槽水中フロー ・多目的トイレ						入札			収蔵庫2空調修繕工事			
友の会7グループ(仏像を学ぶ会、何でも有り会、土器作りの会、風の会、古文書いろはの会、機織りの会盆栽愛好会)活動		協働事業:自然と歴史の散策会(年2回)ほか 第2・4金曜日古文書いろはの会 毎週水曜日機織りの会	23(日)総会		第1回自然と歴史の散策会  10(土)・11(日)ミュージアム・フェスティバル				第1回役員会	第2回自然と歴史の散策会		新春風揚げ大会	第2回役員会	
上総掘り技術伝承研究会		定例活動日 毎週日曜日・又は土曜日	総会		10(土)・11(日)ミュージアム・フェスティバル									
休館日			3(月)・10(月)・17(月)・24(月)	1(月)・8(月)・15(月)・22(月)・29(月)	5(月)・12(月)・19(月)・26(月)	3(月)・10(月)・18(月)・24(月)・31(月)	7(月)・14(月)・21(月)・28(月)	4(月)・11(月)・19(火)・26(月)	2(月)・10(火)・16(月)・23(月)・30(月)	6(月)・13(月)・20(月)・24(金)・27(月)	4(月)・11(月)・18(月)・25(月)・26(火)～31(日)	1(月)～4(木)・9(火)・15(月)・22(月)・29(月)	5(月)・13(火)・19(月)・26(月)	4(月)・11(月)・18(月)・21(木)・25(月)